ザ・フクオカ 第２号

2020 年度 FIUHW 自己点検・評価資料

福岡国際医療福祉大学

目　　次

1. 大学の建学の精神、教育理念と概要 1
1.1　建学の精神 1
1.2　大学の基本理念 1
1.3　５つの教育目標 1
1.4　所在地 1
1.5　沿革 1
1.6　組織図 1
1.7　各学科の入学定員 2
1.8　入試状況・在籍状況 2
1.9　学年暦 5
2. 各職種の現状 6
2.1　理学療法士 6
2.2　作業療法士 8
2.3　視能訓練士 10
2.4　言語聴覚士 12
3. 教育内容 13
3.1　大学のポリシー 13
3.2　カリキュラムの内容 15
4. 大学生活 18
4.1　学生生活 18
4.2　表彰 18
4.3　クラブ及びサークル 18
4.4　国家試験状況・就職状況 18
5. 委員会及び研究 19
5.1　委員会組織と委員 19
5.2　Good Teaching 賞、FD・SD 研修、研究費受給 19
6. 国際関係 22
6.1　留学生・研修生 22
6.2　国際学術活動 22
6.3　他の国際活動 22
7. 地域貢献 22
7.1　地域公開講座 22
7.2　ボランティア 22
8. 教員と業績 23
8.1　学長・副学長 23
8.2　医療学部　理学療法学科 26
8.3　医療学部　作業療法学科 32
8.4　医療学部　視能訓練学科 40
8.5　言語聴覚専攻科 49
9. 大学・関連施設 51

１．大学の建学の精神、教育理念と概要

1．1　建学の精神

生命の尊厳、生命の平等

1．2　大学の基本理念

福岡国際医療福祉大学は、「生命の尊厳、生命の平等」を建学の精神とし、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現をめざす。

1．3　5つの教育目標

チームワーク：「チーム医療」「チームケア」に貢献できる専門性の高い人材を養成する。
専　門　性：保健、医療、福祉分野の高度化・専門化に対応できるとともに、それぞれの分野で指導となり得る人材を養成する。
国　際　性：国内はもとより国際社会でも活躍できる、総合的な臨床能力を持った人材を養成する。
人 格 形 成：知識や技術に偏向しない、バランスのとれた豊かな人間性とコミュニケーション能力を持った人材を養成する。
実　践　力：時代のニーズに適合し、地域医療にも貢献できる、実践力のある人材を養成する。

1．4　所在地

本　館【医療学部】　〒814-0001　福岡県福岡市早良区百道浜3-6-40
TEL：092-832-1200（代表）　FAX：092-832-1167
1号館【看護学部】　〒814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4
2号館【看護学部】　〒814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜2-4-16

1．5　沿革

1990年4月 1日　学校法人高木学園設立
2001年4月 1日　福岡国際医療福祉学院　開校　2020年3月　閉校
2018年8月31日　文部科学省　設置認可
2019年4月 1日　医療学部（理学療法学科、作業療法学科、視能訓練学科）、言語聴覚専攻科　開学
2021年4月 1日　移管：国際医療福祉大学（福岡看護学部）より福岡国際医療福祉大学（看護学部）へ

1．6　組織図

福岡国際医療福祉大学
医療学部　理学療法学科（PT）
作業療法学科（OT）
視能訓練学科（ORT）
看護学部　看護学科（NS）　（2021年4月　国際医療福祉大学より移管）
言語聴覚専攻科（ST）

1．7　各学科の入学定員

福岡国際医療福祉大学は、2019 年 4 月に医療学部の 1 学部 3 学科（理学療法学科、作業療法学科、視能訓練学科）と 1 専攻科（言語聴覚専攻科）で開学した。定員は各学科 40 名、専攻科は 40 名である（表）。

表　入学定員と合計数

学部	学科・専攻科	1 学年定員	合計数	開設年	修業年限	
医療学部	理学療法学科	40	160	2019 年	4 年制	
	作業療法学科	40	160	2019 年	4 年制	
	視能訓練学科	40	160	2019 年	4 年制	
看護学部	看護学科	100	400	2021 年	4 年制	2021 年移管
言語聴覚専攻科		40	80	2019 年	2 年制	

1．8　入試状況・在籍状況

本学は、日々進化する保健・医療・福祉の分野において、それぞれの需要に対応できる医療専門職を養成し、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現をめざし、それを基本理念としている。そのため本学では、豊富なグループ関連施設などと連携し、入学初期より実習を行うことで、「チーム医療・チームケア」の考え方やスキルを身につけ、また、海外研修を必修とすることで、国際的な視野や多言語によるコミュニケーション能力を育むカリキュラム変更を導入している。それにより、国際的に活躍できる医療専門職を養成し、また、それぞれの分野において指導者となり得る人材を養成することで、「共に生きる社会」の実現に尽くすものである。

1）保健・医療・福祉の分野で活躍したいという目的意識が明確であり、何事にも自主的に取り組むことができる者
2）基本的倫理観を持つ者
3）各専門知識を学び応用するために必要な基礎学力を有している者
4）海外の保健・医療・福祉に興味を持つ者

2019 年度入試は、高校推薦入試（公募制・指定校制）・一般前期試験・一般後期試験を実施した。2020 年度入試は AO 入試、大学センター入試を導入した。一般前期試験は本学のみでなく、地方会場として山口・大分・長崎・鹿児島で実施した。2021 年度入試では、AO 入試が総合型選抜に、高校推薦入試（公募制・指定校制）が学校推薦型選抜（公募制・指定校制）、大学入試センター試験利用入試が大学入学共通テスト利用選抜に変更となり、移管された看護学部の入試が開始された。

学生の出身都道府県は、入学者の 65.6%が福岡県、長崎県 5.7%、山口、佐賀、大分、鹿児島の順である。九州地区出身者は全体の 96.5%である（表）。

表　2019 年度入試・2020 年度入試・2021 年度入試　受験状況

	総合型選抜		学校推薦型		特待奨学生		特別選抜		一般前期		一般後期		共通テスト		合　計		
	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	入学者数
医療学部理学療法学科																	
2019年			25	14			3	1	148	52	8	1			184	68	49
2020年	29	3	28	12			0	0	138	42	10	1	55	18	260	76	44
2021年	23	3	50	12			0	0	142	43	6	1	55	17	276	76	43
医療学部作業療法学科															0	0	
2019年			14	14			0	0	55	37	0	0			69	51	47
2020年	16	4	21	17			1	1	68	29	3	1	30	7	139	59	44
2021年	4	3	23	21			0	0	55	24	6	6	22	8	110	62	44
医療学部視能訓練学科																	
2019年			16	16			0	0	48	28	1	1			65	45	40
2020年	12	5	16	16			0	0	55	29	1	1	17	10	101	61	46
2021年	12	5	36	30			0	0	66	12	4	2	22	9	140	58	44
看護学部看護学科																	
2019年	39	16	63	42	189	65	3	3	220	50	19	0	42	22	575	198	119
2020年	33	15	69	42	181	51	4	2	346	31	18	4	74	12	725	157	105
2021年	32	15	72	39			3	1	412	102	23	15	130	14	672	186	111
言語聴覚専攻科																	
	ＡＯ		一般				Ⅰ期		Ⅱ期		Ⅲ期						
2019年	16	15	10	10											26	25	23
2020年							10	10	12	12	5	5			27	27	26
2021年							12	12	7	7	11	10			30	29	28

表　在籍者数及び学籍異動者数

		入学者数	退学者数	休学者数	留年者数	在籍者数	卒業者数
理学療法	2019	49	2			47	
	2020	44	1			43	
	2021	43				43	
作業療法	2019	47	3			44	
	2020	44				44	
	2021	44				44	
視能訓練	2019	40	1		2	37	
	2020	46				48	
	2021	44				44	
言語聴覚	2019	23	2			0	21
	2020	26				26	
	2021	28				28	
看護学科	2018					96	
	2019					119	
	2020					104	
	2021	111				111	
	総計	478	9	0	2	878	21

表　学生の出身県別一覧

	理学療法		作業療法		視能訓練		言語聴覚		
県名	2019 1期	2020 2期生	2019 1期	2020 2期生	2019 1期	2020 2期生	2019 1期	2020 2期生	総計
北海道	0	0	0	0	0	0	0	1	1
青森県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岩手県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宮城県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
秋田県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山形県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福島県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
茨城県	0	0	0	0	0	0	1	0	1
栃木県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
群馬県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
埼玉県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
千葉県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東京都	0	0	0	0	0	0	1	0	1
神奈川県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新潟県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
富山県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石川県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福井県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山梨県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長野県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岐阜県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
静岡県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
愛知県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三重県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
滋賀県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
京都府	0	0	0	0	0	0	0	1	1
大阪府	0	0	0	0	0	0	1	1	2
兵庫県	0	0	0	0	0	0	1	0	1
奈良県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
和歌山県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鳥取県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
島根県	0	1	0	1	0	0	1	0	3
岡山県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
広島県	0	0	0	1	0	0	0	0	1
山口県	3	3	3	0	3	2	0	2	16
徳島県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
香川県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
愛媛県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高知県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福岡県	27	36	28	32	31	23	16	13	206
佐賀県	2	1	0	4	3	4	0	1	15
長崎県	3	4	3	3	3	1	1	0	18
熊本県	1	0	1	1	0	3	1	1	8
大分県	3	1	5	1	2	2	0	0	14
宮崎県	3	0	2	1	0	2	1	0	9
鹿児島県	1	1	1	3	4	1	1	0	12
沖縄県	1	0	0	0	0	0	0	0	1
海外	0	0	0	1	0	1	1	1	4
合　計	44	47	43	48	46	39	26	21	314

1．9　学年暦

表　2020 年度学年暦

	大学行事	学科・専攻関係
4月	3～5日（火ー木）　オリエンテーション 6日　　入学式(中止) 7日（月）　前期授業開始online	
5月	16日　運動会（中止）	
6月	9日(土)　教育後援会 26日(金)　高校教員向け学校説明会 30日(火)　高校教員向け学校説明会	対面授業開始（一部ハイブリッド）
7月	12日(日)　オープンキャンパス 23日（木）前期授業終了 29日(水)　前期試験終了（24日～）	7日（日）　STセミナー 9日（火）　解剖学実習（PT,OT）（中止）
8月	8日(土)　オープンキャンパス 9日(日)　オープンキャンパス 19日(水)　学内研究発表会 30日(日)　オープンキャンパス	21日（土）　ORTセミナー
9月	12日(水)　公的研究費申請セミナー 28日(月)　後期授業開始	
10月	24日(土)　総合型選抜入試 27日(火)　防災訓練 31日(日)　オープンキャンパス 30,31日(土、日)　大学祭（新風祭）　中止	
11月	12日(火)　防災訓練 21日(土)　高校推薦入試	8日(日)　IUHW学会
12月	5日(土)　オープンキャンパス 26日(土)　冬期休暇（3日まで）	
1月	4日(月)　授業再開 15日(金)　後期授業終了 16, 17日(土、日)　共通テスト 18～27日　後期試験	
2月	1,2日（土日）　入試（一般前期、社会人、留学生）	18日　ORT国家試験 20日　ST国家試験 23日　PT/OT国家試験
3月	5日(金)　一般入試後期 6日(土)　ST卒業式 27日(土)　オープンキャンパス 30日(火)　辞令式 31日(水)　オリエンテーション（在校生）	

２．各職種の現状

2．1　理学療法士

1）理学療法士の定義

理学療法士は1965年に公布された理学療法士及び作業療法士法により制定された。その法律の中で「理学療法」とは、「身体に障害のある者に対し、主としてその基本的動作能力の回復を図るため、治療体操その他の運動を行なわせ、及び電気刺激、マッサージ、温熱その他の物理的手段を加えることをいう。」と定義されている。

世界理学療法連盟では以下のように定義されている（1982年）。

理学療法は身体的治療の技術及び科学であり、運動療法、教育指導、温熱、寒冷、光線、水、マッサージ及び電気を治療手段とする。治療目的のなかに痛みの緩和、循環の増加、障害(disability)の予防と改善、力、可動性及び協調性の最大回復がある。

理学療法は、神経支配と筋力の障害(impairment)程度を決定するための電気的・徒手的テスト、機能的能力を決定するためのテスト、関節可動域の測定、肺活量 の測定を医師の診断補助とし、また経過を記録する目的として行うことを含む。

理学療法士は障害(disability)を予防し病人及び障害者(handicapped)を社会復帰(rehabilitate)させるために働くとともに、予防医学においても活動的であり、また臨床研究も行う。

2）養成校の変遷

1963年に国立療養所東京病院付属リハビリテーション学院で開始された。その後、1979年、3年制短期大学が金沢大学医療技術短期大学部で設立、1992に4年制が広島大学医学部に設立された。また、理学療法学分野の大学院修士及び博士課程が設立され、多くの学位取得者がみられるようになった。2020年では大学が118校、3年制短大が4校、専門学校が144校である（表)。

3）理学療法士の現状

2020年度の理学療法士の国家試験合格者の累計は182,904名である。毎年10,000名程度の増加がみられる（表)。

日本理学療法士協会は理学療法士有資格者の職業団体である。現在約12万名の会員で組織されている。

世界理学療法連盟（WCPT）は106各国、40万名の組織団体である。最近は2年に一回、各国で学術大会を開催している。

4）国家試験

理学療法士の国家試験は、作業療法士と同時に行われている。年1回、問題形式は五者択一又は五者択二である。問題数は200問であり、問題範囲は、基礎医学、臨床医学、理学療法などである。

受験者数と合格率について表に示す。最近の合格率は80％台である。

表　　理学療法士の国家試験合格者数の変遷

		受験者数	合格者数	合格率	合格累計	会員数	組織率
1966	昭和41年	1,217	183	15.0	183	110	60.1
1967	昭和42年	1,432	310	21.6	493	229	46.5
1968	昭和43年	1,211	228	18.8	721	282	39.1
1969	昭和44年	1,167	167	14.3	888	502	56.5
1970	昭和45年	1,260	224	17.8	1,112	592	53.2
1971	昭和46年	1,400	136	9.7	1,248	692	55.4
1972	昭和47年	1,000	128	12.8	1,376	860	62.5
1973	昭和48年	1,034	138	13.3	1,514	1,031	68.1
1974	昭和49年	1,014	212	20.9	1,726	1,127	65.3
1975	昭和50年	158	125	79.1	1,851	1,285	69.4
1976	昭和51年	168	98	58.3	1,949	1,422	73.0
1977	昭和52年	264	184	69.7	2,133	1,538	72.1
1978	昭和53年	253	168	66.4	2,301	1,686	73.3
1979	昭和54年	288	216	75.0	2,517	1,839	73.1
1980	昭和55年	329	256	77.8	2,773	2,038	73.5
1981	昭和56年	351	267	76.1	3,040	2,293	75.4
1982	昭和57年	470	419	89.1	3,459	2,472	71.5
1983	昭和58年	544	449	82.5	3,908	2,836	72.6
1984	昭和59年	658	618	93.9	4,526	3,810	84.2
1985	昭和60年	771	729	94.6	5,255	4,468	85.0
1986	昭和61年	914	859	94.0	6,114	5,005	81.9
1987	昭和62年	974	925	95.0	7,039	5,886	83.6
1988	昭和63年	1,004	948	94.4	7,987	6,770	84.8
1989	平成元年	1,064	980	92.1	8,967	7,966	88.8
1990	平成２年	1,103	1,057	95.8	10,024	8,960	89.4
1991	平成３年	1,049	977	93.1	11,001	9,898	90.0
1992	平成４年	1,087	1,029	94.7	12,030	10,874	90.4
1993	平成５年	1,109	1,069	96.4	13,099	11,892	90.8
1994	平成６年	1,196	1,086	90.8	14,185	12,949	91.3
1995	平成７年	1,454	1,422	97.8	15,607	14,150	90.7
1996	平成８年	1,768	1,688	95.5	17,295	15,699	90.8
1997	平成９年	1,889	1,797	95.1	19,092	17,315	90.7
1998	平成10年	2,286	2,215	96.9	21,307	19,206	90.1
1999	平成11年	2,744	2,566	93.5	23,873	21,406	89.7
2000	平成12年	3,196	3,048	95.4	26,921	24,027	89.3
2001	平成13年	3,240	3,140	96.9	30,061	26,910	89.5
2002	平成14年	3,503	3,354	95.7	33,415	29,845	89.3
2003	平成15年	3,686	3,629	98.5	37,044	33,038	89.2
2004	平成16年	4,289	4,199	97.9	41,243	36,693	89.0
2005	平成17年	5,102	4,843	94.9	46,086	40,869	88.7
2006	平成18年	6,155	6,002	97.5	52,088	45,870	88.1
2007	平成19年	7,036	6,559	93.2	58,647	51,380	87.6
2008	平成20年	7,997	6,924	86.6	65,571	57,148	87.2
2009	平成21年	9,119	8,291	90.9	73,862	63,519	86.0
2010	平成22年	9,835	9,112	92.6	82,974	70,758	85.3
2011	平成23年	10,416	7,736	74.3	90,710	76,639	84.5
2012	平成24年	11,956	9,850	82.4	100,560	83,939	83.5
2013	平成25年	11,391	10,104	88.7	110,664	91,476	82.7
2014	平成26年	11,129	9,315	83.7	119,979	95,721	79.8
2015	平成27年	12,035	9,952	82.7	129,931	102,767	79.1
2016	平成28年	12,515	9,272	74.1	139,203	106,670	76.6
2017	平成29年	13,719	12,388	90.3	151,591	115,825	76.4
2018	平成30年	12,148	9,885	81.4	161,476	119,525	74.0
2019	平成31年	12,605	10,809	85.8	172,285	125,372	72.8
2020	令和２年	12,283	10,608	86.4	182,893	129,875	71.0
2021	令和３年	11,946	9,434	79.0	192,327		

2．2　作業療法士

1）作業療法士の定義

作業療法士は1965年に公布された理学療法士及び作業療法士法により制定された。その法律の中で「作業療法」とは、身体又は精神に障害のある者に対し、主としてその応用的動作能力又は社会的適応能力の回復を図るため、手芸、工作その他の作業を行なわせることをいうと定義されている。

しかし、現行の理学療法士及び作業療法士法(1965 年)や日本作業療法士協会が 1985 年に定めた作業療法法の定義では、医療領域における実践イメージと結びつきやすく、多様化する今日の作業療法の現状を適切に表現するには定義を改定する必要が生じた。そこで日本作業療法士協会は、2018年5月、以下に示すとおり、協会が示す作業療法の定義文を改訂した。

「作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す。」

2）養成校の変遷

1963年に国立療養所東京病院付属リハビリテーション学院で開始された。その後、1979年、3年制短期大学が金沢大学医療技術短期大学部で設立、1992年に4年制が広島大学医学部に設立された。また、作業療法分野の大学院修士及び博士課程が設立され、多くの学位取得者がみられるようになった。2020年では養成校数は、大学が83校、短期大学4校、専門学校が108校の計195校である。1998年より養成校が急増し、これはゴールドプランによる高齢者の増加に伴い医療福祉職の需要が多くなったことにより生じたものである（表）。

3）作業療法士の現状

2020年の国家試験の合格者累計は99,270名である。その作業療法士数の変遷を表に示す。

作業療法の対象は、身体、精神、発達、高齢期の障害や、環境への不適応により、日々の作業に困難が生じている、又はそれが予測される人や集団である。

また、作業療法士が関わる領域は、医療、保健、福祉、教育、職業、その他に大別でき、現状では医療機関で働く作業療法士の数が最も多い。しかし、近年は高齢化社会への対応である介護領域で働く作業療法士の数が増加している。また、国が目指している「共生社会の実現」への対応として、障害福祉、教育、職業の領域で働く作業療法士の数も少しずつ増えてきている。

4）国家試験

作業療法士の国家試験は、理学療法士と同時に行われている。年1回、問題形式は五者択一又は五者択二である。問題数は200問であり、問題範囲は、基礎医学、臨床医学、作業療法などである。

受験者数と合格率について表に示す。最近の合格率は70-80%台であり、年によって変化が大きい。

表　作業療法士の国家試験合格者数の変遷

		受験者数	合格者数	合格率	合格累計	会員数	組織率
1966	昭和41年	60	20	33.3	22	18	81.8
1967	昭和42年	390	50	12.8	72	54	75.0
1968	昭和43年	301	60	19.9	132	103	78.0
1969	昭和44年	246	90	36.6	222	150	67.6
1970	昭和45年	271	88	32.5	311	200	64.3
1971	昭和46年	312	47	15.1	360	263	73.1
1972	昭和47年	139	40	28.8	400	296	74.0
1973	昭和48年	87	35	40.2	436	323	74.1
1974	昭和49年	148	70	47.3	506	357	70.6
1975	昭和50年	59	52	88.1	558	383	68.6
1976	昭和51年	72	62	86.1	621	427	68.8
1977	昭和52年	94	80	85.1	702	487	69.4
1978	昭和53年	86	75	87.2	777	555	71.4
1979	昭和54年	88	80	90.9	857	625	72.9
1980	昭和55年	129	123	95.3	980	752	76.7
1981	昭和56年	126	108	85.7	1,088	842	77.4
1982	昭和57年	175	166	94.9	1,255	994	79.2
1983	昭和58年	215	189	87.9	1,445	1,022	70.7
1984	昭和59年	342	305	89.2	1,750	1,167	66.7
1985	昭和60年	405	389	96.0	2,140	1,386	64.8
1986	昭和61年	459	439	95.6	2,581	2,046	79.3
1987	昭和62年	493	427	86.6	3,006	2,414	80.3
1988	昭和63年	572	518	90.6	3,525	2,870	81.4
1989	平成元年	604	556	92.1	4,081	3,387	83.0
1990	平成２年	629	611	97.1	4,692	3,909	83.3
1991	平成３年	612	593	96.9	5,287	4,391	83.1
1992	平成４年	554	540	97.5	5,827	4,901	84.1
1993	平成５年	638	573	89.8	6,401	5,457	85.3
1994	平成６年	763	627	82.2	7,028	6,027	85.8
1995	平成７年	888	680	76.6	7,708	6,636	86.1
1996	平成８年	1,115	1,040	93.3	8,748	7,488	85.6
1997	平成９年	1,152	1,059	91.9	9,808	8,469	86.3
1998	平成10年	1,262	1,226	97.1	11,035	9,570	86.7
1999	平成11年	1,753	1,589	90.6	12,626	11,016	87.2
2000	平成12年	2,312	2,254	97.5	14,880	13,061	87.8
2001	平成13年	2,477	2,347	94.8	17,229	15,193	88.2
2002	平成14年	2,854	2,587	90.6	19,816	17,458	88.1
2003	平成15年	3,205	2,937	91.6	22,755	20,051	88.1
2004	平成16年	3,469	3,313	95.5	26,069	23,151	88.8
2005	平成17年	3,893	3,442	88.4	29,511	26,131	88.5
2006	平成18年	4,571	4,185	91.6	33,696	29,523	87.6
2007	平成19年	5,131	4,400	85.8	38,097	32,948	86.5
2008	平成20年	5,783	4,257	73.6	42,354	35,961	84.9
2009	平成21年	6,675	5,405	81.0	47,759	39,241	82.2
2010	平成22年	6,486	5,317	82.0	53,076	42,348	79.8
2011	平成23年	5,794	4,116	71.0	57,192	44,958	78.6
2012	平成24年	5,821	4,637	79.7	61,829	46,092	74.5
2013	平成25年	5,279	4,079	77.3	65,908	48,008	72.8
2014	平成26年	5,474	4,740	86.6	70,648	49,841	70.5
2015	平成27年	5,324	4,125	77.5	74,773	50,494	67.5
2016	平成28年	5,004	4,711	94.1	79,484	53,045	66.7
2017	平成29年	5,983	5,007	83.7	84,491	55,904	66.2
2018	平成30年	6,164	4,700	76.2	89,191	58,234	65.3
2019	平成31年	6,358	4,531	71.3	93,722	62,294	66.5
2020	令和２年	6,352	5,548	87.3	99,270		
2021	令和３年	5,549	4,510	81.3	103,780		

2．3　視能訓練士

1）視能訓練士の定義

1971 年に視能訓練士法が公布され、視能訓練士が制定された。その法律の中で、両眼視機能に障害のある者に対するその両眼視機能の回復のための矯正訓練及びこれに必要な検査を行なうと定義された。

視能訓練士法制定当時は視能訓練士の業務は小児の斜視や弱視の視機能の検査や視能矯正に限定されていた。しかし、その後、高齢化に伴う眼科領域の疾病構造の変化や、検査機器の進歩による眼科検査の多様化などを受け、1993 年の関係法令成立により、医師の指示の下、人体に影響を及ぼす程度が高い一部の検査を除き、臨床で一般的に行われている眼科諸検査全般を行うことができるようになった。

2）養成校の変遷

1970 年 4 月に東京都世田谷区にあった国立小児病院構内にわが国初の視能訓練士の養成施設が厚生省立として設置開校された。この国立小児病院附属視能訓練学院は短期大学卒業以上の女子を入学資格とし、修業年限 1 年、定員は 30 名であった。5 年遅れて同様の養成校（国立大阪病院附属視能訓練学院）が国立大阪病院構内に付設された。その後、1977 年に新潟医療技術専門学校が高校卒業以上を対象とした私立の 3 年制の専門学校として誕生した。養成校が 3 校のみという時代が長く続いたが、1988 年岐阜視能訓練専門学院（現、平成医療短期大学）の開設を皮切りに多くの養成校が誕生することになる。その一方で、創成期を支えた国立の養成校 2 校はその役目を終え閉校することになった。

最初の視能訓練士養成大学は 1991 年に岡山県倉敷市に誕生した川崎医療福祉大学である。同大学は 1996 年には大学院を設置した。今では視能訓練士にも修士、博士といった学位取得者を見受けるようになった。現在は、大学が 10 校、専門学校が 16 校、短期大学が 1 校、計 27 校である。規制緩和の影響もあり養成の場は徐々に大学にシフトしつつあるが、専門学校の人気も根強い。専門学校は 3 年制の他にも、高度専門士を取得できる 4 年制や、短期大学以上を卒業し規定の単位を取得していれば入学が可能な 1 年制の専門学校も存在する。

3）視能訓練士の現状

2020 年の国家試験の合格者累計は 17,003 名である。毎年約 800 名が増加している。視能訓練士数の変遷を表に示す。

斜視、弱視の視能訓練という専門分野のみを業務としていた創成期に対して、現在は、視能訓練や眼科検査以外にも、3 歳児健診や成人健診などでの視機能スクリーニング、低視力者のリハビリテーション指導など、幅広い業務を担当するようになり、業務は飛躍的に拡大している。さらに近年では、高齢者や発達障碍児が抱える視覚の問題に対する包括的なケアを求める社会のニーズも増大している。

4）国家試験

視能訓練士の国家試験は、年 1 回、東京と大阪の 2 会場で行われる。出題分野は、基礎医学大要、基礎視能矯正学、視能検査学、視能障害学、及び視能訓練学である。問題形式は五者択一又は五者択二である。問題数は 150 問であり、合格基準は 60％である。最近の合格率は 95％以上である。

表　視能訓練士の国家試験合格者の変遷

		受験者数	合格者数	合格率	合格累計	会員数
1971	昭和46年	125	121	96.8	121	
1972	昭和47年	70	49	70.0	170	
1973	昭和48年	92	68	73.9	238	
1974	昭和49年	118	96	81.4	334	
1975	昭和50年	104	62	59.6	396	
1976	昭和51年	115	86	74.8	482	
1977	昭和52年	58	58	100.0	540	
1978	昭和53年	59	57	96.6	597	
1979	昭和54年	62	62	100.0	659	
1980	昭和55年	92	90	97.8	749	
1981	昭和56年	101	94	93.1	843	
1982	昭和57年	110	102	96.3	945	
1983	昭和58年	108	104	96.3	1,049	
1984	昭和59年	103	100	99.1	1,149	
1985	昭和60年	111	110	99.1	1,259	
1986	昭和61年	111	110	99.1	1,369	
1987	昭和62年	115	115	100.0	1,484	
1988	昭和63年	107	107	100.0	1,591	1203
1989	平成元年	111	104	93.7	1,695	1280
1990	平成２年	122	118	96.7	1,813	1304
1991	平成３年	124	122	98.4	1,935	1403
1992	平成４年	131	127	96.9	2,062	1490
1993	平成５年	144	142	98.6	2,204	1574
1994	平成６年	211	202	95.7	2,406	1747
1995	平成７年	283	269	95.1	2,675	1957
1996	平成８年	317	307	96.8	2,982	2033
1997	平成９年	315	312	99.1	3,294	2258
1998	平成10年	327	323	99.1	3,617	2454
1999	平成11年	335	318	94.9	3,935	2688
2000	平成12年	340	332	97.6	4,267	3008
2001	平成13年	362	343	94.8	4,610	3215
2002	平成14年	343	333	97.1	4,943	3403
2003	平成15年	440	415	94.3	5,358	3491
2004	平成16年	503	484	96.2	5,842	3724
2005	平成17年	514	494	96.1	6,336	3987
2006	平成18年	627	612	97.6	6,948	4021
2007	平成19年	573	546	95.3	7,494	4433
2008	平成20年	683	648	94.9	8,142	4618
2009	平成21年	675	624	92.4	8,766	5182
2010	平成22年	685	585	85.4	9,351	5131
2011	平成23年	734	670	91.3	10,021	5433
2012	平成24年	720	665	92.4	10,686	5641
2013	平成25年	743	546	73.5	11,232	5820
2014	平成26年	953	863	90.6	12,095	5897
2015	平成27年	886	788	88.9	12,883	6046
2016	平成28年	886	833	94.0	13,716	6259
2017	平成29年	832	775	93.1	14,491	6288
2018	平成30年	910	889	97.7	15,380	6489
2019	平成31年	834	819	98.2	16,199	6621
2020	令和２年	837	804	96.1	17,003	6669
2021	令和３年	850	774	91.1	17,777	

2．4　言語聴覚士

1）言語聴覚士の定義

1997 年に言語聴覚士法が公布され、言語聴覚士が制定された。その法律の中で、音声機能、言語機能又は聴覚に障害のある者についてその機能の維持向上を図るため、言語訓練その他の訓練、これに必要な検査及び助言、指導その他の援助を行うと定義されている。

2）養成校の変遷

2020 年の言語聴覚士の養成校は大学が 26 校、専門学校が 25 校、2 年制養成が 26 校である。2 年制課程は大学卒業者が入学条件となっている。

3）言語聴覚士の変遷

2020 年の国家試験の合格者累計は 34,489 名である。毎年約 1,700 名が増加している。その言語聴覚士数の変遷を表に示す。

4）国家試験

言語聴覚士の国家試験は、年 1 回、問題形式は五者択一又は五者択二である。問題数は 150 問であり、合格基準は 60％である。最近の合格率は 65～70％台である。

表　言語聴覚士の国家試験合格者数の変遷

		受験者数	合格者数	合格率	合格累計	会員数
1999	平成11年	4,556	4,003	87.9	4,003	
2000	平成12年	1,565	664	42.4	4,667	2,826
2001	平成13年	1,908	936	49.1	5,603	3,269
2002	平成14年	2,113	1,137	53.8	6,740	3,715
2003	平成15年	2,447	1,027	42.0	7,767	4,514
2004	平成16年	1,658	1,130	68.2	8,897	4,948
2005	平成17年	1,812	1,012	55.8	9,909	5,797
2006	平成18年	2,226	1,389	62.4	11,298	6,691
2007	平成19年	2,323	1,266	54.5	12,564	7,421
2008	平成20年	2,574	1,788	69.5	14,352	8,349
2009	平成21年	2,347	1,344	57.3	15,696	
2010	平成22年	2,498	1,619	64.8	17,315	
2011	平成23年	2,374	1,645	69.3	18,960	
2012	平成24年	2,263	1,413	62.4	20,373	
2013	平成25年	2,381	1,621	68.1	21,994	
2014	平成26年	2,401	1,779	74.1	23,773	
2015	平成27年	2,506	1,776	70.9	25,549	
2016	平成28年	2,553	1,725	67.6	27,274	
2017	平成29年	2,571	1,951	75.9	29,225	
2018	平成30年	2,531	2,008	79.3	31,233	17,890
2019	平成31年	2,367	1,630	68.9	32,863	
2020	令和２年	2,486	1,626	65.4	34,489	19,166
2021	令和３年	2,546	1,766	69.4		

３．教育内容

3.1　大学のポリシー

3.1.1　カリキュラム・ポリシー

本学では、基本理念・教育目標を実現するため、調和のとれた人格形成に必要な教養科目を基礎におき、また専門分野に関する科目については体系的に構成するカリキュラムとなっている。

以下に本学のカリキュラム・ポリシーおよびカリキュラム体系を示す。

①総合教育科目：幅広い教養や視野、国際的なセンスを備えた、豊かな人間性を養う。
②専門基礎科目：人体の構造や、疾病に関わる基礎的な知識を学修し、「チーム医療・チームケア」に欠かせないコミュニケーション能力、関連職種に関する知識と連携能力および課題解決能力を身につけた専門職を養成する。
③専 門 科 目：保健、医療、福祉のプロフェッショナルになるための専門知識および技術を身につけ、専門職として社会に貢献できる人材を養成する。

①総合教育科目：幅広い教養や視野、国際的なセンスを備えた豊かな人間性を養うともに、専門教育を受ける上での基本的な知識を修得する科目である。総合教育科目は人間系、社会系、自然・情報系、保健体育系、総合系、外国語系に区分される。
〇4 年間にわたり学べる機会を設けている。
〇原則として全学科共通の開講科目である。
〇外国語系科目は海外研修を念頭に置いた実用性を重視した内容である。
②専門基礎科目：「チーム医療・チームケア」に欠かせないコミュニケーション能力、関連職種に関する知識と連携能力および課題解決能力を身につけた専門職を養成する科目である。
専門科目（高度な専門的知識・技術）を学ぶための前提となる知識、技術を学ぶとともに、医療関連専門職として共通して修得すべき科目であり、原則として全学科共通の開講科目である。
③専 門 科 目：保健、医療、福祉のプロフェッショナルになるための専門知識および技術を身につけ、専門職として社会に貢献できる人材を養成する科目であり、各学科単独の開講科目である。

3.1.2　ディプロマ・ポリシー

本学は、保健、医療、福祉の分野において、高い知識と優れた技能、そして科学的・創造的探究心と豊かな人間性を備えた、時代のニーズや地域医療に貢献できる有為な専門職を養成することで、基本理念にある「共に生きる社会」の実現を目指すものである。

そのため、総合教育と専門教育に重点を置いた体系的なカリキュラムを構築し、学生へ前もって成績評価基準を明示し、「GPA (Grade Point Average)」を用いた厳格な成績評価を行う。卒業要件を満たす所定の単位を修得したものに対して、卒業を認定し、学位を授与する。

本学で卒業までに身につけるべき内容は、以下のとおりである。

①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を尊び、一人の人間として豊かな心を身につけ、時代のニーズや地域で起こっている事象への関心を深め、社会へ貢献するために専門職として必要な高い専門的能力や技術力、実践力を身につける。
②他職種を理解し、職種を超えて問題を探求する姿勢を身につけ、基礎的および専門的な学力を養い、保健、医療、福祉の分野において指導者・研究者となり得る基本的能力を身につける。
③国際社会で活躍するにあたって必要な能力を育むため、知識と技能、語学力を身につける。

3.1.3　理学療法学科のポリシー

カリキュラム・ポリシー

①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。

②保健・医療・福祉分野における関連職種の役割を理解しチーム医療・チームケアが実践でき、対象者の健康と体力の維持・向上に貢献できる能力を身につけるための授業科目を開設する。

③理学療法の実践に必要な、基礎的および専門的な知識・技術を学修するための授業科目を開設する。

④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験することができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー

①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。

②理学療法士として医療分野における他職種の役割を理解し、対象者や利用者に共感しながらチーム医療・チームケアが実践でき、健康と体力の維持・向上に貢献できる。

③基礎的および専門的な知識や技術に基づいた理学療法を実践できるとともに、理学療法の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。

④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

3.1.4　作業療法学科のポリシー

カリキュラム・ポリシー

①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。

②人の心と生活を支えるために必要な専門知識と技術を兼ね備え、チーム医療・チームケアが実践できる人材を育成するための授業科目を開設する。

③科学的・創造的探究心を持ち、作業療法の実践に必要な、基礎的および専門的な知識・技術を学修するための授業科目を開設する。

④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験することができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー

①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。

②作業療法士としての専門的知識、技術を有し、他職種と協働してチーム医療・チームケアを実践することができ、社会的責任をもって人の心と生活を支援できる。

③向上心、探究心をもって、科学的・創造的思考を身につけ作業療法を実践でき、作業療法の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。

④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

3.1.5　視能訓練学科のポリシー

カリキュラム・ポリシー

①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。

②眼科医療において必要とされる専門的知識と技術を学修し、さらに他職種と円滑なコミュニケーションを図りながら医療チームの一員として活躍でき、目の健康と生活の質の向上に貢献できる人材を育成するための授業科目を開設する。

③ 視覚分野における学術的課題を自ら見出し、科学的根拠に基づいて論理的に分析できる人材を育成するための授業科目を開設する。

④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験することができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー

①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。

②視能訓練士として必要な知識と技術を有し、さらに他職種と連携してチーム医療を推進することができ、目の健康と生活の質の向上に貢献できる。

③視覚分野における学術的課題を多角的視点から思考し、収集した情報を科学的根拠に基づいて論理的に分析し解決することができ、視能訓練の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。

④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

3.1.6　言語聴覚専攻科のポリシー

カリキュラム・ポリシー

①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を基に言語聴覚療法の実践に必要な、基礎的及び専門的な知識・技術を学修するための授業科目を開設する。

②保健・医療・福祉分野における関連職種の役割を理解しチーム医療・チームケアが実践でき、対象者のコミュニケーションと生活の質の維持・向上に貢献できる能力を身につけるための授業科目を開設する。

③国際的な視点に立ち、言語聴覚療法を学修できる授業を実施する。

ディプロマ・ポリシー

①基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。

②他職種の役割を理解し、対象者や利用者に共感しながらチーム医療・チームケアが実践でき、コミュニケーションと生活の質の維持・向上に貢献できる。

③言語聴覚療法を実践できるとともに、指導者・教育者となり得る基礎的能力を身につける。

④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

3.2　カリキュラムの内容

カリキュラムは、総合教育科目・専門基礎科目・専門科目に分かれている。総合教育科目は1・2年次に多く履修する。総合教育科目や専門基礎科目の一部は学科共通科目で、学科間の交流もできる。1年次より一部の専門基礎科目を履修する。2年生はより細分化された分野を勉強する。3年生になると実習が多くなり、より実践に近い形で勉強する機会が増える。4年生では実習と卒業研究、国家試験のための模擬試験等を行う。

表には系統図を示す。

総合教育科目

①人　間　系：心理学、哲学、倫理学、文学、教育学、教育評価学、コミュニケーション概論

②社　会　系：海外保健福祉事情Ⅰ（講義）、海外保健福祉事情Ⅱ（実習）、アジア比較文化論、法学、経済学、社会学、国際医療福祉論、社会保障制度論、ボランティア論

③自然・情報系：生物学、物理学、統計学、医療とICT、生命倫理、人間工学

④保健体育系：健康科学理論、健康スポーツ実践

⑤総　合　系：大学入門講座

⑥外国語系：医学英語Ⅰ・Ⅱ、英語（基礎・応用）、英会話、韓国語、中国語、日本語（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）

表　各学科・専攻科の教育カリキュラムの系統図

理学療法学科　履修系統図

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。
②保健・医療・福祉分野における関連職種の役割を理解しチーム医療・チームケアが実践でき、対象者の健康と体力の維持・向上に貢献できる能力を身につけるための授業科目を開設する。
③理学療法の実践に必要な、基礎的及び専門的な知識・技術を学修するための授業科目を開設する。
④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験をすることができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
②理学療法士として医療分野における他職種の役割を理解し、対象者や利用者に共感しながらチーム医療・チームケアが実践でき、健康と体力の維持・向上に貢献できる。
③基礎的及び専門的な知識や技術に基づいた理学療法を実践できるとともに、理学療法の分野において指導者・教育者となり得る基礎的能力を身につける。
④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

	科目分類の学修・教育目標	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	DP①	DP②	DP③	DP④
総合教育科目	【総合教育科目】生命倫理・人の尊厳を幅広く理解し、国際化及び情報化社会に対応できる能力、科学的・論理的思考力、主体的な判断および行動力を育成する。 人間系	心理学、哲学、倫理学、文学、教育学、コミュニケーション概論								◎			
	社会系	海外保健福祉事情Ⅰ（講義）、海外保健福祉事情Ⅱ（実習）、アジア比較文化論、法学、経済学、				社会学、国際医療福祉論、社会保障制度論、ボランティア論							◎
	自然・情報系	生命倫理								◎			
		統計学、医療とICT、生物学、物理学、人間工学									○		
	保健体育系	健康科学理論、健康スポーツ実践										○	
	総合系	大学入門講座								○			
	外国語系	医学英語Ⅰ 韓国語、中国語、英語（基礎）、英語（応用）、英会話		医学英語Ⅱ									◎
専門基礎	【人体の構造と機能及び心身の発達】人体の構造・機能及び心身の発達に関する系統だてられた知識を育成する。	解剖学Ⅰ 生理学Ⅰ 解剖学実習 人間発達学 運動学Ⅰ		解剖学Ⅱ 生理学Ⅱ 生理学実習 病理学 運動学Ⅱ	運動生理学 運動学実習						◎	○	
	【疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進】健康、疾病及び障害について、その予防と回復過程に関する知識を習得し、理解力、観察力、判断力を育成する。	臨床医学概論 公衆衛生学、精神医学Ⅱ、救急医学、薬理学、栄養学、カウンセリング論、小児科学		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学	内科学Ⅰ、神経学Ⅰ 整形外科学Ⅰ 精神医学Ⅰ 臨床心理学概論	内科学Ⅱ 神経学Ⅱ 整形外科学Ⅱ 老年学	医用画像診断学				◎	○	
	【保健医療福祉とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの理念】保健医療福祉の推進のために理学療法士が果たすべき役割について学ぶとともに、地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を育成する。	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論 ケアマネメント論　保健医療福祉制度論			関連職種連携論		リスクマネジメント論 関連職種連携ワーク				◎	○	
専門	【基礎理学療法学】理学療法がハビリテーションの枠組みと理論を理解し、系統的な理学療法を構築できる能力とともに、職業倫理を高める態度を育成する。	理学療法概論 バイオメカニクス		運動解剖学	動作分学		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ管理論 病態運動学 卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）		卒業研究Ⅱ （研究の実践）		○	◎	
	【理学療法評価学】理学療法における評価の枠組みを理解し、心身の機能・構造や日常生活活動の評価に関する知識と技術を育成する。			理学療法評価学	理学療法診断学Ⅰ（基礎） 理学療法診断学Ⅱ（神経診断学）	理学療法診断学Ⅲ（疾患別評価） 理学療法診断学Ⅳ（電気診断学）	クリニカルリーズニング				○	◎	
	【理学療法治療学】障害の予防と治療の観点から、種々の障害に必要な知識と技術を育成する。			PTスキルⅠ演習 （キャリアデザイン）	物理療法Ⅰ 運動療法学総論 癌のリハビリテーション	PTスキルⅡ演習 （検査・測定） 物理療法Ⅱ 生活技術学 小児理学療法学	PTスキルⅢ演習 （障害理解） 理学療法治療学総論 運動系理学療法学Ⅰ 神経系理学療法学Ⅰ 呼吸理学療法学	PTスキルⅣ演習 （専門知識の確認） 運動系理学療法学Ⅱ 神経系理学療法学Ⅱ 代謝系理学療法学 循環理学療法学 理学療法技術学 先端ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学 高次脳機能障害学	理学療法特論Ⅰ（基礎） 理学療法特論Ⅱ（応用）		○	◎	
	【地域理学療法学】患者及び障害者の地域における生活を支援していくために必要な知識や技術を育成する。			装具学 生活環境学 地域理学療法学 障害者スポーツ概論	義肢学		福祉住環境論 産科理学療法学				◎	○	
	【臨床実習】社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力とともに、治療計画立案能力・実践能力を育成する。	基礎実習Ⅰ		基礎実習Ⅱ			検査測定実習	評価実習	地域理学療法学実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ		○	◎	

作業療法学科　履修系統図

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。
②人の心と生活を支えるために必要な専門知識と技術を兼ね備え、チーム医療・チームケアが実践できる人材を育成するための授業科目を開設する。
③科学的・創造的探究心を持ち、作業療法の実践に必要な、基礎的及び専門的な知識・技術を学修するための授業科目を開設する。
④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験をすることができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
②作業療法士としての専門的知識、技術を有し、他職種と協働してチーム医療・チームケアを実践することができ、社会的責任をもって人の心と生活を支援できる。
③向上心、探究心をもって、科学的・創造的思考を身につけ作業療法を実践できるとともに、作業療法の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。
④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

	科目分類の学修・教育目標	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	DP①	DP②	DP③	DP④
総合教育科目	【総合教育科目】生命倫理・人の尊厳を幅広く理解し、国際化及び情報化社会に対応できる能力、科学的・論理的思考力、主体的な判断および行動力を育成する。 人間系	心理学、哲学、倫理学、文学、教育学、コミュニケーション概論								◎			
	社会系	海外保健福祉事情Ⅰ（講義）、海外保健福祉事情Ⅱ（実習）、アジア比較文化論、法学、経済学、				社会学、国際医療福祉論、社会保障制度論、ボランティア論							◎
	自然・情報系	生命倫理								◎			
		統計学、医療とICT、生物学、物理学、人間工学									○		
	保健体育系	健康科学理論、健康スポーツ実践										○	
	総合系	大学入門講座								○			
	外国語系	医学英語Ⅰ 韓国語、中国語、英語（基礎）、英語（応用）、英会話		医学英語Ⅱ									◎
専門基礎	【人体の構造と機能及び心身の発達】正常な人の機能解剖、運動を用、人の成長段階に応じた心身の発達、また正常を逸脱した病気の原因や発生機序についての専門的知識を習得する。これらにより作業療法評価の基礎知識を育成する。	解剖学Ⅰ 生理学Ⅰ 解剖学実習 人間発達学 運動学Ⅰ		解剖学Ⅱ 生理学Ⅱ 生理学実習 病理学 運動学Ⅱ	運動生理学 運動学実習						◎	○	
	【疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進】疾病及び障害について、病態像、予後予測のための画像診断、また健康維持・促進に対応する栄養学を学ぶ。これにより予防と回復過程に関連する知識を習得し、作業療法評価・治療の実践につながる観察力、判断力を培う。	臨床医学概論 公衆衛生学、栄養学、カウンセリング論		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学 薬理学	内科学Ⅰ、神経学Ⅰ 整形外科学Ⅰ 精神医学Ⅰ 臨床心理学概論 小児科学 救急医学	内科学Ⅱ 神経学Ⅱ 整形外科学Ⅱ 老年学 精神医学Ⅱ	医用画像診断学				◎	○	
	【保健医療福祉とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの理念】保健医療福祉制度、地域包括ケアシステム、リハビリテーション理念、関係諸機関との連携に関する知識を習得し、各機関、病院ごとと作業療法士が果たすべき役割について学ぶ。また専門職の教育的役割を担う能力を育成する。	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論 ケアマネジメント論、保健医療福祉制度論、リスクマネジメント論			関連職種連携論		関連職種連携ワーク				◎	○	
専門	【基礎作業療法学】作業療法について、その概念、歴史、「作業」の意味・適応、倫理観、管理運営、また研究法について学び、作業療法の課程について必要な知識と技能を習得する。	作業療法概論 作業学概論 作業工程技術学・基礎論		作業工程技術学・応用論	作業分析学Ⅰ（基礎） 作業応用論	作業分析学Ⅱ（応用）		卒業研究Ⅰ リハビリテーション管理論	卒業研究Ⅱ 作業療法総括論		○	◎	
	【作業療法評価学】作業療法過程における評価（画像情報を含む）の枠組みについて、また各障害、各病期、各年齢における評価技法について学び、作業療法評価に必要な知識と技術を習得する。				生活機能論 作業療法評価学概論	作業療法評価学各論 基礎運動機能評価法 高次脳機能評価法 作業療法評価学演習					○	◎	
	【作業療法治療学】作業療法過程における治療の枠組みについて、また各疾患、各障害、各年齢への作業の適応について学習し、対象者の生活支援にむけた作業療法治療を実践する能力を培う。				作業療法論理論	作業療法適用学概論 障害代償学概論	中枢神経疾患作業療法学Ⅰ（総論） 精神疾患作業療法学Ⅰ（総論） 小児作業療法学Ⅰ（総論） 生活技術学Ⅰ（総論） 高次脳機能障害作業療法学 運動器疾患作業療法学 内科系疾患作業療法学 自助具・福祉機器適用論	中枢神経疾患作業療法学Ⅱ（各論） 中枢神経疾患作業療法学Ⅱ（特論） 精神疾患作業療法学Ⅱ（各論） 精神疾患作業療法学Ⅱ（特論） 小児作業療法学Ⅱ（各論） 小児作業療法学Ⅱ（特論） 生活技術学Ⅱ（各論） コミュニケーション技術論 老年期作業療法学 装具・副子適用論 義肢適用論			○	◎	
	【地域作業療法学】地域包括ケアシステムの枠組みについて、また、各疾患、各障害、各年齢に適した住環境整備、社会資源の活用等について学習し、作業療法士として、障害者児、高齢者の地域生活（在宅生活・就労・就学等）の支援を展開するための能力を培う。			地域生活支援論	バリアフリー論 地域生活作業療法論		住環境整備論 職業関連技術学	作業療法応用学概論			◎	○	
	【臨床実習】学内で習得した知識・技術を見学実習、評価実習、総合実習と段階的に、また各障害、各病期、各年齢について偏りなく行うことにより、多様化した社会的ニーズに対応できる専門的知識・技術・態度を習得し、作業療法の実践力を培っていく。	基礎実習Ⅰ		基礎実習Ⅱ	地域作業療法実習		検査・測定実習	評価実習	総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ		○	◎	

視能訓練学科　履修系統図

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。
②眼科医療において必要とされる専門的知識と技術を学修し、さらに他職種と円滑なコミュニケーションを図りながら医療チームの一員として活躍でき、目の健康と生活の質の向上に貢献できる人材を育成するための授業科目を開設する。
③視覚分野における学術的課題を自ら見出し、科学的根拠に基づいて論理的に分析できる人材を育成するための授業科目を開設する。
④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験することができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
②視能訓練士として必要な知識と技術を身に、他職種と連携してチーム医療を推進することができ、目の健康と生活の質の向上に貢献できる。
③視覚分野における学術的課題を多角的視点から思考し、収集した情報を科学的根拠に基づいて論理的に分析し解決することができるとともに、視能訓練の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。
④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

ディプロマ・ポリシー（DP）とカリキュラムの関連表（◎強く関連している分野　○関連している分野）

	科目分類の学修・教育目標		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	DP①	DP②	DP③	DP④
総合教育科目	【総合教育科目】生命倫理・人の尊厳を幅広く理解し、国際化及び情報化社会に対応できる能力、科学的・論理的思考力、主体的な判断および行動力を育成する。	人間系	心理学、哲学、倫理学、文学、教育学、コミュニケーション概論								◎			
		社会系	海外保健福祉事情Ⅰ（講義）、海外保健福祉事情Ⅱ（実習）、アジア比較文化論、法学、経済学、				社会学、国際医療福祉論、社会保障制度論、ボランティア論							◎
		自然・情報系	生命倫理 統計学、医療とICT、生物学、物理学、人間工学								◎	○		
		保健体育系	健康科学理論、健康スポーツ実践										○	
		総合系	大学入門講座								○			
		外国語系	医学英語Ⅰ　医学英語Ⅱ 韓国語、中国語、英語（基礎）、英語（応用）、英会話											◎
専門基礎	【人体の構造と機能及び心身の発達】人体の構造と機能及び心身の発達に関する系統だてられた知識を育成する。		解剖学 生理学Ⅰ 人間発達学	生理学Ⅱ 生理学実習 病理学 保育								◎	○	
	【疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進】健康、疾病及び障害について、その予防と回復過程に関する知識を習得し、理解力、観察力、判断力を育成する。		臨床医学概論 カウンセリング論、公衆衛生学、薬理学、栄養学、救急医学、精神医学Ⅱ	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学	内科学Ⅰ 神経学Ⅰ 精神医学Ⅰ 小児科学 臨床心理学概論	内科学Ⅱ 神経学Ⅱ 老年学						◎	○	
	【視覚機能の基礎と検査機器】視覚の情報処理過程を学び、関機能を評価する力を育成する。		視機能概論 生理光学Ⅰ	視器解剖病態学Ⅰ 視覚生理学Ⅰ	生理光学Ⅱ 視覚生理学Ⅱ	生理光学Ⅲ	視器解剖病態学Ⅱ					◎	○	
	【保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念】保健医療福祉職員のために視能訓練士が果たすべき役割について学ぶとともに、地域社会における関係諸機関との調整及び教育の役割を担う能力を育成する。		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論 コミュニケーション技術Ⅰ（手話） リスクマネジメント論 ケアマネジメント論、保健医療福祉制度論		関連職種連携論	コミュニケーション技術Ⅱ（点字）	関連職種連携ワーク					◎	○	
専門	【基礎視能矯正学】視能矯正の枠組みと理論を理解し、系統的な視能矯正を構築する能力を育成する。				視能矯正学Ⅰ 視能矯正学Ⅱ	視覚情報処理論Ⅰ	視覚情報処理論Ⅱ 卒業研究Ⅰ 視能矯正学特論	視能矯正学総括論Ⅰ 眼科診療学 視覚情報処理論Ⅲ 視覚と注意		視能矯正学総括論Ⅱ 卒業研究Ⅱ		○	◎	
	【視能検査学】視能検査の専門的知識と技術、その結果を評価する能力育成する。		視能検査学入門	視能検査学基礎	視能検査学Ⅰ	視能検査学Ⅱ 視能検査学Ⅲ 視能検査学Ⅳ	屈折矯正の実際 視覚と画像解析 視能検査学総合演習Ⅰ 視能検査学特論		視能検査学総合演習Ⅱ			○	◎	
	【視能障害学】視能障害の予防と治療の観点から、視覚に関わる高次脳機能障害も含めた種々の障害の知識を育成する。				視能障害学Ⅰ 視能障害学Ⅱ	視能障害学Ⅲ	視能障害学Ⅳ 視能障害評価学 研究と文献Ⅰ 視能障害学特論	視能と高次脳 視能障害学実践演習 研究と文献Ⅱ				○	◎	
	【視能訓練学】視覚発達の促進や種々の視能障害に対する矯正、訓練、指導及び管理の立場から必要な知識と技術を育成する。				弱視斜視論基礎	弱視斜視論Ⅰ 弱視斜視論Ⅱ 視能訓練学Ⅰ 視能訓練学Ⅱ	弱視斜視論Ⅲ 視能訓練学Ⅲ ロービジョン学	弱視斜視論Ⅳ 視覚とｱﾞｰﾁｬﾙﾘｱﾘﾃｨ 視能訓練学特論	視能訓練学総合演習			○	◎	
	【臨地実習】基本的な視能矯正の実践技術の能力を養い、患者との人間関係から共感的態度と医療チームの一員としての資性と自覚を育成する。						臨地実習Ⅰ	臨地実習Ⅱ				○	◎	

言語聴覚専攻科　履修系統図

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。
②保健・医療・福祉分野における関連職種の役割を理解しチーム医療・チームケアが実践でき、対象者のコミュニケーションと生活の質の維持・向上に貢献できる能力を身につけるための授業科目を開設する。
③国際的な視点に立ち、言語聴覚療法を学修できる授業を実施する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
①基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
②他職種の役割を理解し、対象者や利用者に共感しながらチーム医療・チームケアが実践でき、コミュニケーションと生活の質の維持・向上に貢献できる。
③言語聴覚療法を実践できるとともに、指導者・教育者となり得る基礎的能力を身につける。
④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

ディプロマ・ポリシー（DP）とカリキュラムの関連表（◎強く関連している分野　○関連している分野）

	科目分類	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	DP①	DP②	DP③	DP④
専門基礎	【基礎医学】	医学総論 解剖学 生理学 病理学							
	【臨床医学】	内科学	小児科学 リハビリテーション医学 耳鼻咽喉科学 臨床神経学 精神医学 形成外科学						
	【臨床歯科医学・口腔外科学】	臨床歯科医学・口腔外科学							
	【音声・言語・聴覚医学】	音声言語・聴覚医学 中枢神経機能学							
	【心理学】	生涯発達心理学 心理測定法Ⅰ	心理測定法Ⅱ 学習・認知心理学	臨床心理学					
	【言語学】	言語学							
	【音声学】	音声学							
	【音響学】	音声情報処理学・聴覚心理学							
	【言語発達学】	言語発達学							
	【社会福祉・教育】	リハビリテーション入門 リハビリテーション概論 リハビリテーション演習		社会保障制度論・医療関連法規					
専門	【言語聴覚障害学総論】	言語聴覚障害学概論	言語聴覚障害学演習Ⅰ 言語聴覚障害診断学 言語聴覚障害学特論Ⅰ	言語聴覚障害学演習Ⅱ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 言語聴覚障害学研究法概論	言語聴覚障害学特論Ⅲ				
	【失語・高次脳機能障害学】	失語症・高次脳機能障害学 失語症学	失語症学演習 高次脳機能障害学 成人言語障害学演習						
	【言語発達障害学】	言語発達障害学Ⅰ	言語発達障害学Ⅱ 言語発達障害学演習Ⅰ	言語発達障害学演習Ⅱ					
	【聴覚障害学】	聴覚障害学Ⅰ 聴覚障害学Ⅱ	聴覚障害学Ⅲ 聴覚障害学Ⅳ 小児聴覚障害学Ⅰ（基礎） 小児聴覚障害学Ⅱ（応用）						
	【発声発語・嚥下障害学】	発声発語障害学	運動障害性構音障害学Ⅰ（基礎） 摂食・嚥下障害学Ⅰ（基礎）	音声障害学 運動障害性構音障害学Ⅱ（応用） 器質性構音障害学 機能性構音障害学 摂食・嚥下障害学Ⅱ（応用） 吃音学					
	【臨床実習】			臨床実習					

４．大学生活

4.1　学生生活

大学には勉強にも勝る大切なものとして大学行事、そして個人的なクラブ又はサークル活動等がある。様々な活動や人との関わりは人格形成大いに役立つと考えられる。友達や先輩、後輩などとお互いの考えに耳を傾け、その上で共感したり、議論したりできる関係は、将来、医療専門職としての人生も豊かにする。大学行事には、運動会、大学祭などが予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

4.2　表彰（学生優秀賞及び受賞など）

年間成績優秀賞は、学業成績が優秀で人品の優れた学生を顕彰し、副賞として奨学金が授与される。言語聴覚専攻科は2年課程であるため2020年度に最初の卒業生を輩出した。よって、学長賞、協会賞などの受賞があった。

表　年間優秀賞・学長賞・各協会賞

		理学療法学科	作業療法学科	視能訓練学科	言語聴覚専攻科
2019年度	年間成績優秀賞	長澤　由香子	坂本　翼	三島　愛理	

卒業（修了）時

2020年度	学長賞				児玉　梢
	協会賞など				小袋　雅代
	全国リハビリ学校協会賞				田口　晴菜

4.3　クラブ及びサークル

クラブは大学で承認された公式の認可団体で、部室及び援助金が提供される。サークルは個人的な団体（届出のみで活動可能）である。新型コロナウイルス感染症の影響により活動が縮小された。

ク　ラ　ブ：ボランティア部、フラワーデザイン部、テニス
サークル：サッカー・フットサルサークル、バレーサークル、バスケットサークル、動物愛護サークル
野球サークル、オールラウンドサークル、シースポーツサークル、ハンドボールサークル
インスタサークル、文房具サークル、レクレーションサークル、陸上サークル、
スロージョギングサークル

4.4　国家試験状況・就職状況

4.4.1　国家試験状況

言語聴覚専攻科：　第1期修了生21名　　国家試験合格　受験17名　合格15名

2020年度

	受験者数	合格者数	合格率（%）	全国合格率（%）
言語聴覚士	17	15	88.2	69.4

4.4.2　就職状況

2020年度　　（令和3年3月31日現在）

	修了者数	就職希望者数	内定者数	内定率（%）
言語聴覚専攻科	21	15	15	100.0

５．委員会及び研究

5.1　委員会組織と委員

2020 年度の委員会組織と委員を表に示す。なお、各委員会の業務などは自己点検・評価報告書に記載している。

表　2020 年度委員会委員名簿

名称	委員長	副委員長	PT	OT	ORT	ST
教務委員会	北島	丸山	柊、吉塚	北島、丹羽	吉富、橋本	平島
学生委員会	北島	木村	光武、谷口	北島、木村	橋本、佐々木	池下
図書委員会	森	中薗	小坂	中薗	森、潮井川	豊嶋
産学・医工連携委員会	北島	山之口	光武、山之口	北島、佐野	財津、堀川	池下
地域連携・ボランティア	平島	丸山	光武、藤田	佐野、中薗	志岐	平島
ハラスメント防止委員会	平島	吉富	柊	北島	吉富	平島
自己点検評価委員会	今泉	丸山	柊	北島	吉富	平島
国際交流・海外実習	菅原	橋本	田川・吉村	菅原・多賀	橋本・佐々木	吉永
安全衛生・防災対策	丸山	佐々木	藤田	中薗	佐々木	吉永
倫理委員会	吉富	田川	田川	小牧	吉富・王	平島
研究推進委員会	吉富	丸山	光武	中薗	飛松	平島
情報教育（ICT)委員会	橋本	山之口	山之口、吉塚	吉田・松田	橋本	豊嶋
学生募集委員会	柊	丸山	柊、谷口	佐野、吉田	橋本	平島・池下
FD委員会	丸山	松田	吉塚	松田	橋本	平島
就職委員会	平島	多賀	谷口	多賀	松藤、潮井川	豊嶋
国家試験対策委員会	丹羽	豊嶋	吉村	吉田	松藤、潮井川	豊嶋
臨床教育実習	柊	丸山	柊、吉村	丹羽、木村	松藤、潮井川	吉永
中期経営計画	今泉	丸山	柊、谷口	北島、中園	吉富、橋本	平島、吉永
管理運営、奨学金委員会	今泉	丸山	柊	北島	吉富	平島

5.2　Good Teaching 賞、FD・SD 研修、研究費受給

表　2020 年度 Good Teaching 賞受賞者

	最優秀賞	優秀賞	優秀賞
2020 年度	吉塚久記（PT)	平島ユイ子（ST)	池下博紀（ST)

表　FD・SD 等の講習会セミナー

日時	タイトル	講師	主担当
FIUHW　FD委員会主開催			
2020年7月22日	UPIを用いた学生指導	古賀由衣（臨床心理士）	FD委員会
2020年9月23日	大学教育における教育評価の在り方	大塚雄作(IUHW大学院)	FD委員会
2020年12月23日	アクティブラーニング	赤津晴子（IUHW医学部）	FD委員会
2021年3月24日	Good teaching賞表彰＋ミニ講義	各受賞者	FD委員会
FIUHW　他の委員会等との合同FD研修会			
2020年5月20日	Googleフォーム（基礎編）	橋本勇希（FIUHW-ORT）	ICT委員会
2020年5月21日	対面授業再開に向けての授業説明会	北島栄二（FIUHW-OT）	教務委員会
2020年5月28日	実習科目（実技科目）についてのデモンストレーション	FIUHW-PT、FIUHW-ORT	ICT委員会
2020年5月29日	第１回防災講習・訓練	藤本管理課長	防災委員会
2020年6月11日	Googleフォーム（応用編）	山之口稔隆(FIUHW-PT)	ICT委員会
2020年8月19日	科研費申請	飛松省三（FIUHW-ORT）	研究推進委員会
2020年8月19日	学内研究発表会７名発表予定	各学科２名、専攻科１名	研究推進委員会
2020年8月31日	ハラスメント研修	DVD（IUHW）	ﾊﾗｽﾒﾝﾄ防止委員会
2020年10月21日	コンプライアンス研修	DVD（IUHW）	研究協力室
2020年10月21日	研究倫理講習	DVD（IUHW）	研究協力室
2020年11月24日	管理者ハラスメント講習会	DVD（IUHW）	研究協力室
2021年3月29日	Google Calender の使用方法	大池美也子（IUHW-NS）	ICT委員会
IUHW大学院教育管理分野合同FD研修会　医学教育セミナー			
2020年5月13日	ZOOMの使い方breakout	柊幸伸（FIUHW-PT）	大学院教育管理
2020年5月21日	ZOOMやGoogle meetなどのオンライン会議システムの比較	糸数昌史（IUHW-PT）	大学院教育管理
2020年5月28日	Googleフォームアンケート	小野田公(IUHW-PT)	大学院教育管理
2020年6月4日	Google Classroomの活用	糸数昌史（IUHW-PT）	大学院教育管理
2020年6月11日	Googleカレンダーの使い方、遠隔での試験の仕方	糸数昌史（IUHW-PT）	大学院教育管理
2020年6月18日	反転授業	小野田公(IUHW-PT)	大学院教育管理
2020年6月25日	様々なカメラの活用	糸数昌史（IUHW-PT）	大学院教育管理
2020年7月2日	Pre FD nituite	大塚雄作（IUHW院教育）	大学院教育管理
2020年7月9日	三つのポリシー	大塚雄作（IUHW院教育）	大学院教育管理
2020年7月16日	教育評価	大塚雄作（IUHW院教育）	大学院教育管理
2020年10月1日	FIUHW紹介と大学教員	丸山仁司(FIUHW-PT)	大学院教育管理
2020年10月8日	医学教育専門家養成	堀本ゆかり（IUHW-PT）	大学院教育管理
2020年10月22日	ポートフォリオ	森田正治（IUHW-PT）	大学院教育管理
2020年10月29日	mini-clinical Evaluation Exercise	堀本ゆかり（IUHW-PT）	大学院教育管理
2020年11月5日	ルーブリック	堀本ゆかり（IUHW-PT）	大学院教育管理
2020年11月12日	医学教育研究に用いる統計の考え方	渡辺志（IUHW統計）	大学院教育管理
2020年11月19日	学習障害傾向の学生の導き方①特徴	藤本幹(IUHW-OT)	大学院教育管理
2020年11月26日	医学教育研究に用いる統計の考え方	渡辺志（IUHW統計）	大学院教育管理
2020年12月3日	学習障害傾向の学生の導き方事例	藤本幹(IUHW-OT)	大学院教育管理
2020年12月10日	学習障害傾向の学生の導き方まとめ	藤本幹(IUHW-OT)	大学院教育管理
外部遠隔FDセミナー			
2020年6月24日	医療系学生への効果的な学修支援		東進
2021年2月15日	リモート授業における効果的なグループワークの構築	（杏林大学）	全国リハビリ学校協会

表　文部科学省科学研究費　受給者一覧

	氏名	所属	職名	課題番号	種目	代表/分担	研究期間	研究テーマ
1	森　望	ORT	教授	17K07111	基盤研究(C)	代表	2017年度～2019年度	神経特異的ホスホチロシンシグナルアダプター ShcB, ShcCの分子機能解析
2	大池　美也子	NS	教授	17K12119	基盤研究（Ｃ）	代表	2017年度～2020年度	看護教員コンピテンシーモデルの開発と検証
3	白石　裕子	NS	教授	17K12481	基盤研究（Ｃ）	代表	2017年度～2020年度	精神科訪問看護師の認知行動療法実践を促進するスーパーノイズの効果に関する研究
4	黒木　司	NS	准教授	17K12488	基盤研究（Ｃ）	代表	2017年度～2020年度	炎症性腸疾患患者のストレス不適応に対するストレスマネジメント介入
5	石橋　曜子	NS	講師	17K12277	基盤研究（Ｃ）	分担	2017年度～2020年度	頭頸部がんで化学放射線療法を受ける患者の栄養状態改善のための介入プログラムの開発
6	楠葉　洋子	NS	教授	17K12248	基盤研究（Ｃ）	分担	2017年度～2020年度	子供を持つ乳がん患者に対する複合型サポートグループプログラムの有効性の検証
7	森山　ますみ	NS	教授	17H04471	基盤研究（Ｂ）	代表	2017年度～2021年度	外国人の出身国および我が国のECD事情のデータベース作成
8	北島　栄二	OT	教授	18K12171	基盤研究(C)	代表	2018年度～2020年度	シルバーカーから歩行車への変更が要介護高齢者の身体活動量に及ぼす効果
9	平島　ユイ子	ST	教授	18K02768	基盤研究(C)	分担	2018年度～2020年度	聴覚情報処理障害児（APD児）への聴覚訓練プログラムの開発
10	平島　ユイ子	ST	教授	18K02798	基盤研究(C)	代表	2018年度～2021年度	自閉症を伴う難聴児のコミュニケーション改善に向けた訂正方略と情動認知の活用
11	中薗　寿人	OT	講師	18K17720	若手研究	代表	2018年度～2021年度	経頭蓋交流電気刺激を用いた新しい脳可塑性誘導法の開発
12	吉村　千草	NS	助教	18K17435	若手研究	代表	2018年度～2020年度	女性潜在看護師のライフスタイルに着目した復職支援に影響する要因の検証
13	前田　和香子	NS	講師	18K10163-2	基盤研究（Ｃ）	分担	2018年度～2020年度	転職による職場再適応プロセスの解明と再適応を支援するキャリア発達プログラムの開発
14	楠葉　洋子	NS	教授	18K10504	基盤研究（Ｃ）	分担	2018年度～2021年度	統合失調症者のリカバリーとスポーツ科学に関する研究
15	黒木　司	NS	准教授	19K11292	基盤研究（Ｃ）	分担	2019年度～2021年度	配偶者や重要他者との死別体験後、後期高齢者がより良く生きるための支援策の策定
16	池田　拓郎	PT	講師	19K20156	若手研究	代表	2019年度～2022年度	加齢による立体運動視の脳内神経ネットワークの変化と転倒との因果関係の検討
17	吉塚　久記	PT	講師	20K23307	研究スタート支援	代表	2020年度～2021年度	踵腓靭帯に個人レベルの機能差は存在するのか？：解剖体を用いた機能解剖学的検討
18	橋本 勇希	ORT	准教授	20K19698	若手研究	代表	2020年度～2022年度	脈絡膜循環動態と形態を用いた新たな他覚的ストレス評価法の開発
19	藤田 大輔	PT	講師	20K19358	若手研究	代表	2020年度～2022年度	慢性心不全患者における労作時呼吸困感に関連する新しい因子の同定
20	飛松 省三	ORT	教授	20K12573	基盤研究（C）	代表	2020年度～2022年度	視覚はよみがえるのか？弱視と視覚系神経ネットワークの可塑性
21	堀川　悦夫	ORT	教授	20K11217	基盤研究(C)	分担	2020年度～2022年度	施設横断型(大規模)データーベース構築による日本人歩行標準値の確立
22	光武　翼	PT	講師	20H04059	基盤研究(B)	代表	2020年度～2023年度	ノイズ前庭電気刺激の姿勢安定性に関する多角的研究
23	佐野 伸之	OT	講師	20K19301	若手研究	代表	2020年度～2023年度	達成動機の本質に基づく客観的評価法の開発と介入プログラムの作成
24	岩倉　真由美	NS	助教	20K11080	基盤研究（Ｃ）	代表	2020年度～2022年度	透析患者の主体的自己管理行動を支援するヘルスコミュニケーションモデル開発
25	楠葉　洋子	NS	教授	20K11080-3	基盤研究（Ｃ）	分担	2020年度～2022年度	透析患者の主体的自己管理行動を支援するヘルスコミュニケーションモデル開発
26	高木　良重	NS	講師	20K10577	基盤研究（Ｃ）	分担	2020年度～2022年度	地域包括ケアシステムにおける尿失禁看護の検討とクリティカルパスの開発
27	岩木　三保	NS	講師	20K10577-1	基盤研究（Ｃ）	分担	2020年度～2022年度	地域包括ケアシステムにおける尿失禁看護の検討とクリティカルパスの開発
28	梅本 直子	NS	准教授	20K11080-1	基盤研究（Ｃ）	分担	2020年度～2022年度	透析患者の主体的自己管理行動を支援するヘルスコミュニケーションモデル開発
29	岩木　三保	NS	講師	20K11080-2	基盤研究（Ｃ）	分担	2020年度～2022年度	透析患者の主体的自己管理行動を支援するヘルスコミュニケーションモデル開発
30	木室　ゆかり	NS	講師	20K19300	若手研究	代表	2020年度～2023年度	地域高齢者における認知機能低下リスク者への早期介入方法の開発
31	石橋　曜子	NS	講師	20K10777	基盤研究（Ｃ）	代表	2020年度～2024年度	咽頭全摘出者の家族の術後生活への移行を促進する外来での生活支援プログラムの開発
32	岩倉　真由美	NS	助教	20H03990-2	基盤研究（Ｂ）	分担	2020年度～2024年度	看護師によるPOCUS活用に関する研究 - DVT予防対策と安全なケアへの効果 -

表　学内研究費・科学研究費申請状況

学内研究費	理学療法学科		作業療法学科		視能訓練学科		言語聴覚専攻科	
	申請	決定	申請	決定	申請	決定	申請	決定
一般研究A			1	0	3	2		
一般研究B	2	0					1	1
教育手法					1	0		
地域調査							1	0
臨床研究	2	2	1	0				
合計	4	2	2	0	4	2	2	1

科学研究費	申請	決定	申請	決定	申請	決定	申請	決定
基盤B	1	1						
若手	2（1）	1	1	1	2	1		
挑戦（萌芽）	1	0						
合計	4	2	1	1	2	1	0	0

６．国際関係

6.1　留学生・研修生　　2021.3.31 現在

1）留学生

理学療法学科　１、２年生　無

作業療法学科　１年生１名（中国）、２年生　無

視能訓練学科　１、２年生　無

言語聴覚専攻科　１、２年生　無

2）研修生受入　無

6.2　国際学術活動

1）講演：学術大会、研修会など

・丸山仁司：th International meeting of Asian Rehabilitation Science in China.　招待講演.

日時：2020 年 12 月 5 日　Web

場所：北京三環腫瘍病院　北京

6.3　他の国際活動

1）国際学術大会、セミナー開催

(1)アジアリハビリテーション科学学会

th International meeting of Asian Rehabilitation Science in China.　招待講演.

日時：2020 年 12 月 5 日　Web

場所：北京三環腫瘍病院　北京、日本

th International meeting of Asian Rehabilitation Science in Japan.

日時：2021 年 3 月 6 日（土）　Web

場所：福岡、北京、ミャンマー、韓国

７．地域貢献

7.1　地域公開講座

地域社会のために、公開講座及びセミナーを開催している。(表)

表　2020 年度地域公開講座

内容	講師	対象	日時
1）公開講座			
高齢者の健康～認知編	尾籠晃司、吉永明史、池下博紀	地域	2020 年 11 月 7 日
2）言語聴覚専攻科主催　子どもの発達と言語聴覚士の支援			
1.嚥下障害の予防と訓練	吉永明史		2020 年 6 月 27 日
2.認知症の理解とかかわり方	池下博紀		2020 年 7 月 15 日
3.高齢者の難聴と補聴器	平島ユイ子		2020 年 8 月 19 日
4.認知症の予防とかかわり方	吉永明史		2020 年 9 月 16 日
5.吃音をもつ子供たちへの支援	豊嶋明子	地域	2020 年 11 月 28 日
6.学修限度の指導方法	平島ユイ子	地域	2020 年 12 月 5 日

7.2　ボランティア

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により多くの活動が中止となった。

８．教員と業績（業績は2020年１月１日より2020年12月31日まで）

表　学科長・専攻科長と学年担任

学科	年	学科長	1年生担任	2年生担任
理学療法	2019年	柊　幸伸	玉利　誠 光武　翼	
	2020年	柊　幸伸	吉村　美香 谷口　隆憲	光武　翼 吉塚　久記
作業療法	2019年	北島栄二	松田　隆治 中薗　寿人	
	2020年	北島栄二	中薗　寿人 木村まり子	松田　隆治 佐野　伸之
視能訓練	2019年	吉冨健志	橋本　勇希	
	2020年	吉冨健志	橋本　勇希	佐々木　信
言語聴覚	2019年	平島ユイ子	池下　博紀	
	2020年	平島ユイ子	吉永　明史	池下　博紀

8.1　学長・副学長

1)　今泉　勉　学長　MD,PhD

研究内容：循環器内科学、高血圧学、循環調節

著　　書：最新高血圧診療学　今泉勉編著　2010年８月　永井書店

論　　文：Transplanted cord blood-derived endothelial cells augment poasnatal neovascularization.　Jounal of Clinical Investigation 105(11) :1527-1536,2000

学　　歴：九州大学医学部卒業
博士　九州大学　医学博士

職　　歴：米国バージニア州リッチモンド医科大学　Assistant Prof.
九州大学循環器内科講師、九州大学医学部第３内科（心臓・血管内科）主任教授
国際医療福祉大学副大学院長

資　　格：医師（日本、米国）

役 員 歴：日本循環器学会理事、日本高血圧学会理事

著　　書：・Nishida N, Aoki H, Ohno-Urabe S, Nishihara M, Furusho A, Hirakata S, Hayashi M, Ito S, Yamada H, Hirata Y, Yasukawa H, Imaizumi T, Tanaka H, Fukumoto Y: High salt intake worsens aortic dissection in mice: Involvement of IL(Interleukin)-17A-dependent ECM(Extracellular Matrix) metabolism.
Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2020 Jan;40(1):189-205. doi:
10.1161/ATVBAHA.119.313336. Epub 2019 Nov 7.
・Hirakata S, Aoki H, Ohno-Urabe S, Nishihara M, Furusho A, Nishida N, Ito S, Hayashi M, Yasukawa H, Imaizumi T, Hiromatsu S, Tanaka H, Fukumoto Y: Genetic deletion of Socs3 in smooth muscle cells ameliorates aortic dissection in mice.
JACC Basic Transl Sci. 2020 Jan 8;5(2):126-144. doi:
10.1016/j.jacbts.2019.10.010. eCollection 2020 Feb.

2)　丸山　仁司　教授　RPT,PhD

担当科目：がんのリハビリテーション、先端リハビリテーション科学

研究内容：運動学、運動生理学、理学療法教育

学　　歴：行岡リハビリテーション専門学校卒業
学士：東京理科大学工学部卒業　工学
修士：東京理科大学大学院工学研究科修了　工学修士
博士：埼玉医科大学　医学博士

職　　歴：東京都老人医療センター，板橋ナーシングホーム，東京都老人総合研究所
埼玉医科大学短期大学
国際医療福祉大学保健医療学部理学療法学科教授、副学長、副大学院長
福岡国際医療福祉大学　副学長

原　　著：・嶋田裕司、昇　寛、佐野徳雄、中山彰博、丸山仁司：レーザー光線を用いた足部横アーチ高測定装置の 検者内・間信頼性.　理学療法科学　35(1):77-81,2020.

・和田三幸、小野田公、丸山仁司：理学療法士のリアリティショックおよび バーンアウトの状況調査 ―卒業前と就職3ヵ月後の比較.　理学療法科学　35(1):121-124,2020.

・田村良子、勝平純司、丸山仁司：回復期リハ病棟における大腿骨近位部骨折後患者および中枢神経系疾患患者の初期評価による 退院時の階段昇降可否要因の検討.　理学療法科学　35(1):113-119,2020.

・Hualong Xie, Kuan Lu, Guochen Lyu, Guoxin Kang, Qiuchen Huang, Shan Liu, Ming Huo, Ko Onoda, Hitoshi Maruyama, Hiroshi Nobori：Reliability of ultrasonographic measurement of the supraspinatus thickness at different angles of shoulder abduction in patients with stroke.　Journal of Physical Therapy Science 32(3): 257-259,2020.

・Hikaru Mori, Makoto Tamari, Hitoshi Maruyama: Relationship between walking ability of patients with stroke and effect of body weight-supported treadmill training.　Journal of Physical Therapy Science 32(3):206-209,2020.

・飯島進乃、福田圭佑、原毅、金子純一朗、丸山仁司：消化器がん患者を対象とした外来での術前運動プログラム提示の効果　理学療法科学　35(3):309-313,2020.

・田尻后子、霍明、曽我部美恵子、岩崎朱美、四方早子、丸山仁司：中高年女性において尿失禁が日常生活のQOLに与える影響.　理学療法科学　35(3):315-319,2020.

・嶋田裕司、昇寛、佐野徳雄、中山彰博、丸山仁司：レーザー距離計を用いた足部横アーチ高測定方法の考察.　国際エクササイズサイエンス学会誌　3(2):8-11,2020.

・嶋田 裕司, 昇 寛, 佐野 徳雄, 中山 彰博, 丸山 仁司：レーザー光線を用いた足部横アーチ高測定装置の検者内・間信頼性 .理学療法科学 35(1):77-81,2020.

・堀本 祥惟, 尾崎 純, 小野田 公, 丸山 仁司：整形外科クリニックにおける患者満足度調査. 日本リハビリテーション教育学会誌 3(3)39-45, 2020.

・堀本 祥惟、尾崎 純、小野田 公、丸山 仁司：整形外科クリニックに勤務する理学療法士の職務満足に関する調査.　日本リハビリテーション教育学会誌 3(4):46-51,2020.

・石野麻衣子、丸山仁司、堀本ゆかり：理学療法士のキャリア発達に影響を与える職業経験に関する質的研究. 日本リハビリテーション教育学会誌 2020;3(4):52-63.

・伊藤将円、井川達也、原毅、丸山仁司：高齢者における歩行器、歩行車を使用した際の歩行分析.　理学療法学　47(5):5:450-458,2020.

・Yohei Sawaya, Masahiro Ishizaka, Akira Kubo, Takahiro Shiba Tamaki Hirose, Ko Onoda, Hitoshi Maruyama, Tomohiko Urano,:Association between skeletal muscle mass index and lung function/respiratory muscle strength in older adults requiring long-term care or support.　J Phys Ther Sci 32:754-759,2020.

・Yohei Sawaya, Masahiro Ishizaka, Akira Kubo, Takahiro Shiba Tamaki Hirose, Ko Onoda, Hitoshi Maruyama, Tomohiko Urano,:The Asian working group for sarcopenia's new criteria updated in 2019 causing a change in sarcopenia prevalence in Japanese older adults requiring long-term care/support. J Phys Ther Sci 32:742-747,2020.

・Yuetong Zhu, Zimin Wang, Yue Zhou, Ko Onoda, Hitoshi Maruyama: Chunying Hu, PT2), Zun Liu,Summary of respiratory rehabilitation and physical therapy guidelines for patients with COVID-19 based on recommendations of World Confederation for Physical Therapy and National Association of Physical Therapy. J Phys Ther Sci 32:545-549,2020.

・Mingdong Zhang, Changsheng An, Haomin Zhang, Hongguang Li, Ming Huo, Ko Onoda, Hitoshi Maruyama:Reliability of measurement reliability and optimal number of measurements for mental arithmetic reaction time test. J Phys Ther Sci 32:463:466,2020.

・千葉哲也、堀本ゆかり、丸山仁司：リハビリテーション科職員のメンタルヘルスストレス軽減のための構造改革への取り組み. 理学療法科学 35(6):803-806,2020.

・Shuangyan Shao, Hitoshi Maruyama：Testing the Validity of the Diamond Steps Test for Balance in Healthy Adults. Arc Rehabili reser clin Trans 2020:2:100091.

・Yohei Sawaya Masahiro Ishizaka Akira Kubo Takahiro Shiba Tamae Sato Ko Onoda Hitoshi Maruyama Tomohiko Urano:Absolute reliability of tongue pressure measurement in young healthy adults and elderly patients with certification of needing long‐term care or support.Geriatr Gerontol Int 20:488-493,2020.

・右田 正澄, 丸山 仁司, 山本 澄子：脳卒中患者による短下肢装具の装着に要した時間の分析 装具の種類と身体機能が装着時間に与える影響. 日本義肢装具学会誌 36(2):138-142,2020.

・山口 育子, 内田 学, 丸山 仁司：介護予防における吸気筋トレーニング追加併用の効果 運動耐容能におよぼす影響. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 28(3):471-479, 2020.

・韓 憲受, 久保 晃, 丸山 仁司：理学療法学科新規卒業者の20年間における就職地域と就職先調査 国際医療福祉大学大田原キャンパスでの検討. 理学療法とちぎ 9(1):13-17,2020.

・福永 遼平, 丸山 仁司：患者満足度と自己超越性が外来患者の行動変容に与える影響 日本リハビリテーション教育学会誌 3(5):90-99, 2020.

・入野 隆仁, 丸山 仁司, 石黒 圭応：アンケート調査による高位ヒール靴使用時の転倒つまずきの実態 日本整形靴技術協会雑誌 5:11-14,2020.

・岡崎 浩二, 堀本 ゆかり, 丸山 仁司：協同学習を取り入れた学生ミーティングが学生の自己教育力に及ぼす影響 診療参加型臨床実習による 4 年生総合臨床実習における検討 . 日本リハビリテーション教育学会誌 3(2):28-33,2020.

講　　演：丸山仁司：高齢者にける予防リハビリテーションの国際動向 .2020年12月5日　第10回アジアリハビリ科学学会学術大会　北京三環腫瘍病院 WEB

学会報告：・YUETONG ZHU, ZIMIN WANG, KO ONODA, HITOSHI MARUYAMA, CHUNYING HU, QIUCHEN HUANG, YUE ZHOU. Summary of Respiratory Rehabilitation and Physical Therapy Guidelines for Patients with COVID-19 Based on Recommendations of World Confederation for Physical Therapy and National Association of Physical Therapy. International congress of PTS in Korea 2020-11-22 O-J05.

・岡村大二郎, 堀本ゆかり, 丸山仁司, 篠原信夫： 回復期リハビリテーション病院における主任療法士の理想像を探る　主任療法士と若手療法士の双方の視点から. 日本リハビリ教育学会誌　2020,3(suppl.2):4. 第10回日本リハビリテーション教育学会　福岡 2020.12

・鎌倉崇之, 堀本ゆかり, 丸山仁司, 篠原信夫：リハビリテーション職における職場内卒後教育システムの構築～ビジネスマナーに目を向けて～　日本リハビリ教育学会誌 2020,3(suppl.2):6. 第10回日本リハビリテーション教育学会　福岡　2020.12

・陳雷、周丹陽、解化龍、雷明、小野田公、丸山仁司：脳血管障害患者における神経筋関節促通法の骨盤アプローチによる歩行能力及びバランス機能への即時効果. 第７回アジアリハビリテーション科学学会国際学術大会　北京　2020.12.5

・単玉其、霍明、苑佳林、張轟、 丸山仁司、小野田公：健康女性における神経筋関節促通法の胸椎介入による胸郭機能への即時効果. 第７回アジアリハビリテーション科学学会国際学術大会　北京　2020.12.5

・解化龍、周丹陽、陳雷、霍明、小野田公、 丸山仁司：脳血管障害片麻痺患者におけるNJF介入により棘上筋厚とAGTの変化について. 第７回アジアリハビリテーション科学学会国際学術大会　北京　2020.12.5

・LIU XINGKAl、小野田公、丸山仁司、霍明、苑佳林、斉皓：神経筋関節促通法による肩関節位置覚への影響. 第７回アジアリハビリテーション科学学会国際学術大会　北京　2020.12.5

・呉恒、曲明慧、解化龍、劉延豊、葛萌、霍明、小野田公、丸山仁司：神経筋関節促通法による階段ステップ動作が立位姿勢に及ぼす影響. 第７回アジアリハビリテーション科学学会国際学術大会　北京　2020.12.5

・熱依汗、堀本ゆかり、丸山仁司、霍明：中国における高齢者の身体活動量と生活習慣病の関連性について. 第７回アジアリハビリテーション科学学会国際学術大会　北京　2020.12.5

所属学会：日本リハビリテーション医学会、 理学療法科学学会、全国大学理学療法教育学会、日本保健医療連携教育学会、日本運動障害研究会、日本保健科学学会、日本理学療法士協会

社会的活動（役員歴など）：

学校法人国際医療福祉大学評議員、理事、社）理学療法科学学会会長、日本保健科学学会理事、評議員、社）リハビリテーション教育評価機構監事、社）全国リハビリテーション学校協会理事、アジアリハビリテーション科学学会会長

福岡山王病院倫理委員会委員

8.2　医療学部　理学療法学科

(1)　教員紹介

2020年度教員：柊　幸伸（教授・学科長）

小坂克子（教授：解剖学）、田川辰也（教授：内科）、山之口稔隆（講師：医療情報）、光武　翼（講師）、吉村美香（講師）、吉塚久記（講師）、藤田大輔（講師）、谷口隆憲（助教）

1)　柊　幸伸　学科長、教授　RPT, PhD

担当科目：大学入門講座、理学療法概論、リハビリテーション概論、義肢学、装具学・他

研究内容：小型センサを用いた動作分析手法の研究・他

著書論文：理学療法学辞典（分担執筆）、医学書院

臨床スポーツ医学（分担監訳）、医学映像教育センター

PT・OTビジュアルテキスト　義肢・装具学（分担執筆）、羊土社

学　　歴：学士　京都産業大学　経済学部経済学科（経済学）

東京衛生学園専門学校

修士　国際医療福祉大学大学院修士課程（保健医療学）

博士　国際医療福祉大学大学院博士課程（保健医療学）

職　　歴：シャープシステムプロダクト株式会社

海老名総合病院

東都リハビリテーション学院、埼玉医療福祉専門学校教員

国際医療福祉大学、了徳寺大学

福岡国際医療福祉大学　理学療法学科長

資　　格：理学療法士、宅地建物取引主任免許、介護支援専門員、養成施設等教員長期講習会修了

所属学会：日本理学療法士協会，理学療法科学学会，日本体力医学会，臨床歩行分析研究会，

日本リハビリテーション教育学会，国際エクササイズサイエンス学会，

アジアリハビリテーション科学学会

社会的活動（役員歴など）：理学療法科学学会評議員、リハビリテーション学術センター理事

2) 光武　翼　講師　RPT, PhD

担当科目：物理療法Ⅰ，物理療法Ⅱ，理学療法診断学Ⅱ（神経診断学），理学療法診断学Ⅳ（電気診断学），神経系理学療法学Ⅱ，運動生理学，関連職種連携ワーク，他

研究内容：前庭覚が姿勢制御機能に及ぼす影響，脳卒中患者に対する電気刺激療法が歩行能力に及ぼす効果，歩行時の加速度解析，感覚再比重に関する脳機能解析

学　　歴：医療福祉専門学校緑生館
学士：人間総合科学大学　人間科学
修士：佐賀大学大学院 医学系研究科修士課程 修了　修士（医科学）
博士：佐賀大学大学院 医学系研究科博士課程 早期修了　博士（医学）

職　　歴：白石共立病院 リハビリテーション部
佐賀大学 医学部 客員研究員、非常勤講師
福岡国際医療福祉大学 医療学部 理学療法学科 講師

資　　格：理学療法士、認定理学療法士（基礎）、専門理学療法士（神経）

原　　著：・Mitsutake T, Sakamoto M, Nakazono H, Horikawa E. The effects of combining transcranial direct current stimulation and gait training with functional electrical stimulation on trunk acceleration during walking in patients with subacute stroke. J Stroke Cerebrovasc Dis. 30(4): 105635, 2021.
・Nagae M, Mitsutake T, Sakamoto M. Skincare and quality of life among older residents living in Japanese nursing homes. Jour Nursing Home Res. 7:9-12, 2021.
・Mitsutake T, Imura T, Tanaka R. The Effects of Vestibular Rehabilitation on Gait Performance in Patients with Stroke: A Systematic Review of Randomized Controlled Trials. J Stroke Cerebrovasc Dis. 29(11):105214, 2020.
・Mitsutake T, Sakamoto M, Kawaguchi A, Tamari M, Horikawa E. Greater functional activation during galvanic vestibular stimulation is associated with improved postural stability: a GVS-fMRI study. Somatosens Mot Res. 37(4):257-261, 2020.
・Matsuo T, Moriuchi T, Iso N, Hasegawa T, Miyata H, Maruta M, Mitsutake T, Yamaguchi Y, Tabira T, Higashi T. Effects of prism adaptation on auditory spatial attention in patients with left unilateral spatial neglect: a non-randomized pilot trial. Int J Rehabil Res. 43(3):228-234, 2020.
・Iwasaka C, Mitsutake T, Horikawa E. The Independent Relationship Between Leg Skeletal Muscle Mass Asymmetry and Gait Speed in Community-Dwelling Older Adults. J Aging Phys Act. 30:1-9, 2020.

総　　説：・光武 翼．小脳疾患患者の眼球運動障害に対する理学療法アプローチ．理学療法 37(11):994-1001, 2020

講　　演：神経筋電気刺激療法の実際．日本物理療法学会 Web セミナー．Web 開催 2020 年 7 月
脳画像(fMRI)を学ぼう．福岡国際医療福祉大学 リハビリテーション研究会．福岡県 2020 年 7 月
脳卒中患者に対する装具を用いた運動療法．福岡県理学療法士協会．Web 開催 2021 年 2 月

学会報告：光武翼，中薗寿人，堀川悦夫．脳卒中患者に対する経頭蓋直流電気刺激と傾斜センサ内蔵型電気刺激の併用が歩行規則性に及ぼす影響．日本理学療法士協会 物理療法部門研究会 2021 年 2 月［最優秀論文賞受賞］

その 他（学位取得、資格取得、研究費）：
光武翼．ノイズ前庭電気刺激の姿勢安定性に関する多角的研究．日本学術振興会：科学研究助成事業 基盤研究(B)．2020 年 4 月-2024 年 3 月　12，220 千円

所属学会：日本理学療法学会，日本物理療法学会，日本臨床神経生理学会，　理学療法科学学会

社会的活動（役員歴など）：
日本物理療法学会　代議員（2020 年～）
福岡県理学療法士協会 福岡支部 2 地区 運営委員（2019 年～）

3) 吉塚　久記　講師　RPT, PhD

担当科目：運動学Ⅰ，運動学Ⅱ，バイオメカニクス，理学療法評価学，運動療法学総論，他

研究内容：足関節・足部の肉眼解剖学的研究，変形性股関節症の保存療法，
整形外科疾患の超音波動態解析，解剖学と動作分析学の教育に関する質的研究，
理学療法の臨床実習教育に関する研究

著書論文：Anatomical variation in the form of inter- and intra-indivitual laterality of the calcaneofibular ligament. Anat Sci Int. 2018

学　　歴：福岡国際医療福祉学院　理学療法学科
修士：佐賀大学大学院　医学系研究科　修士課程医科学専攻修了　医科学
博士：佐賀大学大学院　医学系研究科　博士課程医科学専攻修了　医学

職　　歴：特定医療法人弘医会　福岡鳥飼病院
専門学校　柳川リハビリテーション学院　理学療法学科
佐賀大学医学部　生体構造機能学講座　解剖学・人類学分野　客員研究員

資　　格：理学療法士，認定理学療法士（ひとを対象とした基礎領域，学校教育）

原　　著：江越正次朗，國分裕一，吉塚久記，光武　翼，大古場良太：若年者の健康コントロール所在と身体活動，身体機能との関係について．理学療法さが 6(1)：1-6，2020.

学会報告：・吉塚久記，佐野伸之，光武　翼，小坂克子：多視点 3D 解剖教育システムを用いた実習の有用性：Focus Group Interview による質的研究．第 10 回国際医療福祉大学学会学術大会（Web）．2020 年 11 月
・福田謙典，吉塚久記，本多重信：脊柱管外病変に起因する殿部痛および坐骨神経症状を呈した 3 症例の理学療法前後の超音波動態評価．第 33 回日本臨床整形外科学会学術集会（愛知：Web 開催），2020 年 9 月
・大古場良太，長谷川正哉，吉塚久記，本多裕一，高野吉朗，松田憲亮，有家尚志，浅見豊子：足底の特定部位への知覚と荷重指示による歩行時の体幹移動量の変化について．第 57 回日本リハビリテーション医学会学術集会（京都），2020 年 8 月

その他（学位取得、資格取得、研究費）：
・吉塚久記：踵腓靭帯に個人レベルの機能差は存在するのか？：解剖体を用いた機能解剖学的解析．科学研究費　研究活動スタート支援，2020-22
・吉塚久記，光武　翼，村上淳也，佐藤貴宣：変形性股関節症患者に対する短期集中的なジグリング治療に関する研究．学内研究費　臨床研究，2020-21

所属学会：日本理学療法士協会，日本解剖学会，理学療法科学学会

社会的活動（役員歴など）：
福岡県理学療法士会　筑後支部　学術担当　運営委員
第 29 回日本義肢装具学会学術大会（佐賀）運営委員
日本リハ医学会　第 55 回学術集会（福岡）実行委員、プログラム委員
日本理学療法士協会　ガイドライン・用語策定委員会　班員

4) 吉村　美香　講師　RPT, MS

担当科目：生活環境学，地域理学療法学，理学療法診断学Ⅰ，生活技術学，PT スキルⅡ

研究内容：介護予防の効果に関する研究，介護労働者の作業負担

学　　歴：柳川リハビリテーション学院卒業
修士：国際医療福祉大学大学院修士課程修了　保健医療学
博士：国際医療福祉大学大学院博士課程満了　保健医療学

職　　歴：医療法人せいわ会 聖和記念病院
医療法人波多江外科医院　介護老人保健 志摩老健センター・パキス
福岡国際医療福祉学院
福岡国際医療福祉大学

資　　格：理学療法士、介護支援専門員

原　　著：吉村美香，森田正治：学業成績へ影響を与える不安要因の検討．日本リハビリテーション教育学会誌 3(3)：34-38，2020.

その他（学位取得、資格取得、研究費）：
サルコペニア・フレイル学会認定
サルコペニア・フレイル指導士　取得
国際医療福祉大学大学院　保健医療学博士　取得
所属学会：日本理学療法士協会，日本産業衛生学会，理学療法科学学会

5) 藤田　大輔　講師　RPT，PhD
担当科目：呼吸理学療法学、関連職種連携ワーク、運動系理学療法学Ⅱ、代謝系理学療法学、循環理学療法学
研究内容：運動負荷における呼吸循環反応の解析
著書論文：Supine effect of passive cycling movement induces vagal withdrawal
Pulmonary oxygen uptake on- kinetics can predict acute physiological responses to resistance exercise training in healthy young men
異なる歩行速度を用いた一段階運動負荷試験による酸素摂取量の時定数の最小可検変化量の検討
学　　歴：学士：聖隷クリストファー大学
修士：聖隷クリストファー大学大学院修士課程　リハビリ科学
博士：聖隷クリストファー大学大学院博士課程　リハビリ科学
職　　歴：ケアハウス第２アドナイ館
磐田市立総合病院　リハビリテーション技術科
健康科学大学　健康科学部　理学療法学科
資　　格：理学療法士免許
所属学会：日本理学療法士協会，理学療法科学学会

6) 谷口　隆憲　助教　RPT，PhD
担当科目：運動解剖学，理学療法診断学Ⅲ（疾患別評価），理学療法治療学総論，運動系理学療法学Ⅰ，病態運動学，理学療法技術学，クリニカルリーズニング
研究内容：運動器疾患患者の運動解析
学　　歴：福岡国際医療福祉学院　理学療法学科卒業
修士：国際医療福祉大学大学院修士課程　保健医療学
博士：国際医療福祉大学大学院博士課程　保健医療学
職　　歴：白十字病院、諸岡整形外科病院　さくらクリニック
福岡国際医療福祉学院　理学療法学科
福岡国際医療福祉大学　医療学部　理学療法学科
資　　格：理学療法士，認定理学療法士（運動器）
その他（学位取得、資格取得、研究費）：認定理学療法士（学校教育）取得
所属学会：日本理学療法士協会，日本運動器理学療法学会，日本理学療法教育学会，理学療法科学学会
社会的活動（役員歴など）：福岡県理学療法士会 福岡支部２地区 運営委員

理学療法士以外の教員
7) 田川　辰也　教授　MD，PhD
担当科目：内科学Ⅰ・Ⅱ，病理学，内科学，医学総論，海外保健福祉事情Ⅰ
研究内容：血管内皮機能，動脈硬化予防，臨床栄養学
著書論文：Vasodilatory effect of arginine vasopressin is mediated by nitric oxide in human forearm vessels.（J Clin Invest 1993）
Long-term treatment with eicosapentaenoic acid improves exercise-induced vasodilation in patients with coronary artery disease.（Hypertens Res 2002）
Defects of vascular nitric oxide bioavailability in subjects with impaired glucose tolerance: A potential link to insulin resistance.（Int J Cardiol 2014）

Valsalva 試験　臨床医のための循環器自律神経機能検査法（メディカルレビュー社）
心不全における末梢循環異常とは　心不全に挑む・患者を救う（新・心臓病診療プラクティス 6）（文光堂）
人体の構造と機能および疾病の成り立ち／疾病の成因・病態・診断・治療（医歯薬出版）
学　　歴：九州大学医学部医学科卒業
博士：九州大学（医学）
職　　歴：九州大学病院研修医
山口赤十字綜合病院　内科医師
University of Sydney, Department of Physiology Research Assistant
北九州市立医療センター　循環器内科　部長
琉球大学医学部　助教授
琉球大学大学院医学研究科　助教授
西南女学院大学　保健福祉学部　栄養学科　教授
福岡国際医療福祉大学　医療学部　理学療法学科　教授
資　　格：医師免許，日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医
日本循環器学会認定循環器専門医，日本高血圧学会認定高血圧専門医
日本医師会認定産業医，日本医師会認定健康スポーツ医
学会報告：小森叶和子、山田菜樹、磯﨑陽子、福井絵美、東谷亜美、角みどり、中村清子、田川辰也、早川祐輔、宮原茂、徳松誠.　日本総合健診医学会第 49 回大会 2021.2.19～2021.3.4
所属学会：日本内科学会，日本循環器学会，日本高血圧学会，日本栄養改善学会，
日本心臓リハビリテーション学会
社会的活動（役員歴など）：日本高血圧学会評議員、日本循環器学会九州支部評議員

8)　小坂　克子　教授　D.D.S、PhD
担当科目：解剖学、解剖学実習
研究内容：神経解剖学
著書論文：匂いと香りの科学（分担執筆）　「5. 嗅球の構造と機能」　（朝倉書店）
Encyclopedia of Neuroscience（分担執筆）Vol. 7 P59-69. Olfactory bulb anatomy (Academic Press)
学　　歴：東京医科歯科大学歯学部歯学科
博士：東京医科歯科大学　歯学
職　　歴：日本学術振興会　特別研究員、九州大学医学部保健学部門（解剖学）教授
国際医療福祉大学　福岡保健医療学部　医学検査学科　教授
福岡国際医療福祉大学教授
資　　格：歯科医師
原　　著：Kosaka T, Pignatelli A, Kosaka K:Heterogeneity of tyrosine hydroxylase expressing neurons in the main olfactory bulb of the mouse. Neurosci Res. 157:15-33,2020. doi: 10.1016.
学会報告:小坂克子・吉塚久記・佐野伸之・光武翼:多視点３Ｄ解剖教育システムの有用性 -Focus Group Interview による質的研究―.第 10 回国際医療福祉学会各術大会 Web 会議
所属学会：日本解剖学会、日本味と匂学会
社会的活動（役員歴など）：日本解剖学会　九州支部評議員

9)　山之口　稔隆　講師　MPH, PhD
担当科目：医療と ICT、統計学
研究内容：医療情報システムに関する研究、医療ビッグデータの可視化に関する研究、公衆衛生学
著書論文：Predictors of prolonged time of operation using general anesthesia in a teaching hospital,2019.03.
学　　歴：学士：福岡大学工学部卒業　工学
修士：九州大学医学研究科　修了　医療経営・管理学修士

博士：福岡大学大学院医学研究科修了　医学
職　　歴：株式会社日立メディコ
九州大学病院　医療情報部、福岡大学病院　医療情報部
九州大学　インスティテューショナル・リサーチ室
福岡国際医療福祉大学
資　　格：エックス線作業主任者
日本医療情報学会認定　医療情報技師
日本医療情報学会認定　上級医療情報技師
所属学会：日本医療情報学会，日本公衆衛生学会
社会的活動（役員歴など）：
日本医療情報学会　上級医療情報技師能力検定試験委員会　委員
日本医療情報学会　医療情報技師能力検定試験・問題作成委員

8.3　医療学部　作業療法学科

(1)教員紹介

2020 年度教員： 北島栄二（教授・学科長）

菅原洋子（教授）、丹羽敦（教授）、小牧　元（教授：心療内科）、新居見和彦（教授：小児科）、副島修（教授：整形外科）、 尾籠晃司（教授：精神医学）、 松田隆治（准教授）、多賀誠（准教授）中薗寿人（講師）、佐野伸之（講師）、木村まり子（助教）、吉田亮平（助教）

1)　北島　栄二　教授　OTR, PhD

担当科目：障害代償学概論、自助具・福祉機器適用論、装具/副子適用論、義肢適用論、住環境整備論

研究内容：1.福祉用具の利用満足度, 2.住環境整備の実態, 3.産学連携による福祉用具の開発, 4.医療と介護の連携における福祉用具提供のあり方, 5.介護ロボットのニーズ・シーズ調査ならびに介護技術開発支援

著書論文：Actual use of and satisfaction with rollators and ‘shopping carts’ among frail elderly Japanese people who use day-service facilities,Disability and Rehabilitation: Assistive Technology, ,Published online: 06 Apr 2016

生活環境学テキスト　(シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ), 細田 多穂　(監修), 北島 栄二・他　(編集), 南江堂

学　　歴：長崎大学医療技術短期大学部作業療法学科

修士（医科学：H19）佐賀大学大学院医学系研究科　医科学専攻修士課程

博士（医学：H28）長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻

職　　歴： 医療法人智仁会 佐賀リハビリテーション病院 作業療法科　主任

㈳緑生館 医療福祉専門学校緑生館 作業療法学科　専任教員

佐賀県長寿社会振興財団 佐賀県介護実習普及センター 専門相談員

厚生労働省 老健局振興課　福祉用具・住宅改修指導官

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 作業療法学科　准教授

長崎大学 産学官連携戦略本部　准教授

文科省地域イノベーション戦略支援プログラム招聘研究員

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 作業療法学科　教授

福岡国際医療福祉大学医療学部 作業療法学科　教授　（現在に至る）

資　　格：作業療法士

原　　著:・Daisuke Tashiro, Masami Nakahara, Eiji Kitajima, Katsuko Hida,Respiratory function and comfort levels in three different defecatory simulation postures in the elderly Indian Journal of Gastroenterology, 11, Online ahead of print. 2020.

・Daisuke Tashiro, Masami Nakahara, Eiji Kitajima, Kenzo Haraguchi, The effects of a defecation posture, supported by the upper limbs, on respiratory function Journal of Physical Therapy Science 32(5):332-336,2020.

総　　説：・北島栄二, 福祉用具機器で自立した生活を(第 9 回) 歩行器での移動(屋内) , ふれあいケア 26(1):50-53,2020.

・北島栄二, 福祉用具機器で自立した生活を(第 10 回) 歩行器での移動(屋外), ふれあいケア 26(2):50-53,2020.

その他（学位取得、資格取得、研究費）:

・北島栄二, シルバーカーから歩行車への変更が要介護高齢者の身体活動量に及ぼす効果, 日本学術振興会　科学研究費助成事業 基盤研究 C, 代表者, 2019～2022

・粟沢広之, ひざ掛けタイプのウェイティッドブランケットの適応範囲と効果的な使用 方法に関する研究－高齢者・障害者施設と児童発達支援施設における検証－, (公財) フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団, 2020 年度(第 31 回) 研究助成･事業助成・ボランティア活動助成, 共同研究者, 2020～2021

所属学会：(一社) 日本作業療法士協会

社会的活動（役員歴など）：
（一社）日本作業療法士協会制度対策部福祉用具対策委員会委員（副委員長）
日本健康促進医学会評議員、NPO 法人長崎斜面研究会監事

2)　菅原　洋子　教授　OTR、PhD
担当科目：リハビリテーション概論　作業学概論　海外保健福祉事情Ⅰ・Ⅱ　運動学Ⅰ・Ⅱ
研究内容：頚髄損傷者の社会参加　発展途上国の作業療法
著書論文：作業療法学全書第３版　身体障害　　協同医書出版社
作業―その治療的応用　　協同医書出版
標準作業療法学「身体機能作業療法学」　　医学書院
頚髄損傷者の機能再建術後の長期経過　作業療法 26(5)：449 - 458 2007
学　　歴：国立療養所東京病院付属リハビリテーション学院卒業
学士：法政大学第二文学部卒業
修士：筑波大学大学院教育研究科修了（カウンセリング学）
博士：国際医療福祉大学大学院博士課程修了（保健医療学）
職　　歴：厚生連　鹿教湯温泉療養所、東京都心身障害者福祉センター
国立療養所東京病院付属リハビリテーション学院　教員
国立療養所村山病院
国際医療福祉大学保健医療学部講師、小田原保健医療学部学科長
JICA シニアボランティア（ミャンマー）
福岡国際医療福祉大学教授
資　　格：作業療法士
所属学会：日本作業療法学会　作業療法教育学会、国際リハビリテーション学会、作業科学学会
社会的活動（役員歴など）：
栃木県作業療法士会理事、大田原市介護認定審査委員、神奈川県作業療法学会学会長

3)　丹羽　敦　教授　OTR　MS
担当科目：作業療法概論、作業療法評価学概論、生活機能論、地域作業療法学概論、卒業研究他
研究内容：在宅障害者（児）・高齢者の QOL、作業療法教育、作業療法臨床教育
著書論文：作業療法臨床実習のチェックポイント（メジカルビュー）
PT・OT ﾋﾞｭｼﾞｭｱﾙﾃｷｽﾄ　ADL（羊土社）、リハビリテーション基礎評価学（羊土社）
作業療法管理学入門（医歯薬）
新しい臨床実習形態の提案（作業療法ジャーナル）
病棟看護婦による退院計画の展開とそれに影響する要因との関連（在宅ケア学会誌）
学　　歴：熊本リハビリテーション学院卒
学士：北九州大学卒　（英米学科）
修士：国際医療福祉大学大学院修了　（保健医療学）
職　　歴：慈恵曽根病院、柳川リハビリテーション学院
国際医療福祉大学 保健学部・福岡保健医療学部、大学院
福岡国際医療福祉学院 作業療法学科 専任教員
広島都市学園大学健康科学部作業療法学専攻 教授、専攻長、大学院教授
福岡国際医療福祉大学 医療学部 作業療法学科 教授
資　　格：作業療法士、認定作業療法士、介護支援専門員、福祉用具プランナー
著　　書：・丹羽敦・松田隆治編：実数の要点を網羅！ 作業療法臨床実習のチェックポイント，0 章 イントロダクション P1-4、1 章 作業療法臨床実習の概要 P6-14，18，5 章 疾患別にみる臨床技能・臨床思考過程 p 53-75，メジカルビュー，2020.3.31.
・下田信明編：PT･OT のための臨床実習の鉄則，第 6 章 実習報告事例　2.作業療法，P170-176，金原出版，2020.11.30.
総　　説：・原賢治，丹羽敦，角田孝之：理学療法士養成課程の初年次におけるキャリア発達支援の重要性，日本リハビリテーション教育学会誌 3(5):80-89,2020.

学会報告：第57回 日本リハビリテーション医学会学術集会
2020年8月19日-21日　国立京都国際会館（ハイブリット開催）
口述発表「洗体動作の工夫による呼吸応答の変化」　高島千敬　丹羽敦
所属学会：日本作業療法学会　福岡県作業療法学会　日本リハビリテーション学校協会
日本在宅ケア学会　全国地域作業療法研究会　日本作業療法教育研究会
社会的活動（役員歴など）：福岡県作業療法協会理事（学術部担当理事）、
福岡県社会福祉協議会 福祉用具専門部会長、福岡市介護認定審査会 副部会長、
広島県作業療法学会長、日本作業療法協会 教育部 養成教育委員会 副委員長（現）
福岡県作業療法協会理事（副会長）（現）

4) 松田　隆治　准教授　OTR、MS
担当科目：作業療法評価学各論、中枢神経疾患作業療法学Ⅰ」（総論）、内科系疾患作業療法学、作業療法総括論、検査・測定実習、評価学実習、総合実習Ⅰ・Ⅱ
研究内容：イメージ（in put）と運動（out put）の関連、効果的な授業展開
著書論文：社会リハビリテーションの課題（分担執筆、中央法規）
からだの動きの解剖生理学（分担執筆、金芳堂）
日常生活活動の作業療法（分担執筆、中央法規）
これで解決！PT・OT・ST臨床実習まるごとガイド（監修、金芳堂）
実習の要点を網羅！　作業療法臨床実習のチェックポイント（編集、メジカルビュー社）
学　　歴：熊本リハビリテーション学院　作業療法学科卒業
学士：明星大学人文学部　心理・教育学科卒業
修士：日本大学大学院総合社会情報研究科　人間科学専攻修士課程修了
九州保健福祉大学大学院保健科学研究科　博士課程単位修得後退学
職　　歴：湯布院厚生年金病院、吉備国際大学作業療法学科助手、九州保健福祉大学作業療法学科講師
熊本総合医療リハビリ学院作業療法学科講師、九州栄養福祉大学作業療法学科講師、
帝京大学福岡医療技術学部准教授、福岡国際医療福祉大学（現在）
資　　格：作業療法士、認定作業療法士、臨床実習指導認定者
社会的活動（役員歴など）：大分県作業療法士会副会長、宮崎県作業療法士会会長、
延岡市介護認定審査会審査委員、大牟田市手鎌地区地域ケア会議委員
日本作業療法士協会教育部研修運営委員会生涯教育研修運営班長

5) 多賀　誠　准教授　OTR, MS
担当科目：作業療法諸理論，精神疾患作業療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，コミュニケーション技術論，
職業関連技術学，作業療法総括論，地域作業療法実習，検査・測定実習，評価実習，
総合実習Ⅰ・Ⅱ，海外保健福祉事情Ⅱ，卒業研究Ⅰ・Ⅱ
研究内容：精神障害者のリハビリテーション，精神障害者の就労支援，臨床教育
著書論文：保健医療福祉のための臨床推論（朝倉書店）
国試の達人 作業療法編（アイペック）
ひとりで学べる 作業療法士国家試験 問題と詳解（廣川書店）
学　　歴：労働福祉事業団　九州リハビリテーション大学校　作業療法学科
修士：国際医療福祉大学大学院　保健医療学専攻　作業療法学分野　修了
職　　歴：医療法人 慈光会 若久病院
精神障害者地域生活援助事業所グループホーム若久荘
精神障害者社会適応訓練事業所ソシエテわかひさ
柳川リハビリテーション学院　作業療法学科
JICA（国際協力機構）より専門家として中国北京へ派遣
福岡国際医療福祉学院　作業療法学科
国際医療福祉大学福岡保健医療学部講師、准教授・大学院准教授
福岡国際医療福祉大学　医療学部　作業療法学科　准教授

資　　格：作業療法士
学会報告：・多賀誠，長谷麻由，有久勝彦，日田勝子，原口健三：生活行為向上マネジメントの活用状況からみる精神障害分野臨床実習の検討～臨床実習指導者へのアンケート結果から～．第54回　日本作業療法学会　2020年9月25日～10月25日Web
・多賀誠：精神科病院における長期入院患者の退院に向けてのチェックシート作成．　第10回国際医療福祉大学学会学術大会　2020年11月8日．
所属学会：日本作業療法士協会、福岡県作業療法協会、国際医療福祉大学学会
社会的活動（役員歴など）：
福岡・佐賀精神科OT懇話会（現福岡県精神科病院協会OT・PT会）筑後ブロック長
福岡ブロック運営委員、 福岡・佐賀精神科OT懇話会
福岡県作業療法協会　規約委員、将来構想委員、福岡市体育振興会
日本作業療法士協会　教育部　生涯教育運営委員
九州作業療法士学校連絡協議会OT啓発プロジェクト実行委員、新人教員教育実行委員
特定非営利活動法人とびら　理事

6）佐野　伸之　講師，OTR，PhD
担当科目：地域生活作業療法論，作業分析学Ⅰ，作業分析学Ⅱ，基礎作業実習Ⅰ，基礎作業実習Ⅱ
研究内容：モチベーション（達成動機），地域リハビリテーション，介護予防，高次脳機能障害
著書論文：実習の要点を網羅！作業療法臨床実習のチェックポイント（分担），株式会社メジカルビュー社，2020
PT・OTビジュアルテキスト 身体障害作業療法学1 骨関節・神経疾患編 第1版（分担），株式会社羊土社，2018
学　　歴：吉備国際大学保健科学部作業療法学科
修士（保健学：2013年）吉備国際大学大学院保健科学研究科修士課程
博士（保健学：2016年）吉備国際大学大学院保健科学研究科博士後期課程
職　　歴：一般財団法人津山慈風会津山中央病院、株式会社アール・ケア
吉備国際大学保健医療福祉学部作業療法学科　講師
国際医療福祉大学福岡保健医療学部作業療法学科　講師
福岡国際医療福祉大学医療学部作業療法学科　講師
資　　格：作業療法士，認定作業療法士，作業療法士臨床実習指導者
著　　書：佐野伸之（分担）：丹羽敦，松田隆治　編集：実習の要点を網羅！作業療法臨床実習のチェックポイント　株式会社メジカルビュー社 2020-3-30　執筆：第5章-5 末梢神経損傷（上肢）
原　　著：・佐野裕和，佐野伸之：介護保険領域におけるリハビリテーションに関する達成動機尺度（SAMR）の臨床有用性．－訪問作業療法によるクライエントの目標達成を促す支援を通して－．作業療法39(5) 590-596，2020.
・佐野裕和，籔脇健司，佐野伸之：地域在住要介護高齢者の役割遂行と環境要因が健康関連QOLに与える影響．－身体機能の影響を含む包括的検討－．作業療法39(1) 60-66，2020.
・南征吾，坂梨仁勇，小林隆司，青木秀哲，青山朋樹，福元喜啓，佐野伸之，肥田光正，石川健二，嶋野広一：重度麻痺側上肢を補助的上肢へ移行する合目的的活動と電気刺激療法－通所施設の合目的的電気刺激療法のプログラム開発－．大阪河崎リハビリテーション大学紀要14:19-25,2020.
講　　演：・日本リハビリテーション科学学会 オンラインセミナー：リハビリテーションにおける意欲の科学的探求 －達成動機の評価方法と実践応用－ （講師）2020年11月13日
・福岡県作業療法士協会　第3回SV講習会　講義6 臨床実習指導方法論③（講師）2021年1月23-24日
・福岡県作業療法士協会　第4回SV講習会　講義5 職業倫理および連携論（講師）2021年2月27-28日

学会報告：・松本健太郎，佐野伸之：リハビリテーションに関する達成動機尺度に基づく自己評定法と面接法の介入効果の検討-人工股関節全置換術後患者に対するケースシリーズ-. 第54回日本作業療法学会，2020年9月25日-2020年10月25日

・齋藤みのり，佐野伸之：多機能型事業所での取り組みから見た障害福祉分野での作業療法士の役割 ―重症心身障害児を通したコンサルテーションと活かす仕組み作り―. 第54回日本作業療法学会，2020年9月25日-2020年10月25日

・佐野裕和，佐野伸之：当院短時間通所リハビリテーションの介入効果の検討-活動・参加に焦点を当てた通所リハ終了の取り組み-. 第26回岡山県保健福祉学会，2020年1月27日

その他（学位取得、資格取得、研究費）：

佐野伸之：達成動機の本質に基づく客観的評価法の開発と介入プログラムの作成. 科学研究費助成事業　若手研究（代表者）2020年4月-2024年3月

佐野伸之：マルチレベル分析による地域サロンごとのソーシャル・キャピタルの熟成度と高齢者の活動量や介護予防要因に関する検討. 笹川保健財団研究助成（実践調査・研究支援）（代表者）2020年4月-2021年8月

所属学会：日本作業療法士協会，福岡県作業療法士会，日本臨床作業療法学会，日本認知症ｹｱ学会

社会的活動（役員歴など）:岡山県作業療法学会演題査読委員，第29回岡山県作業療法学会実行委員，「作業療法おかやま」論文査読委員，日本作業療法学会 第5期演題審査委員，第23回福岡県作業療法学会査読委員，ジャーナル「作業療法・福岡」論文査読委員

7) 中薗　寿人　講師　OTR，PhD

担当科目：作業工程技術学・基礎論、作業工程技術学・応用論

研究内容：非侵襲的脳刺激法、脳波などを用いた脳機能研究（運動、視覚、高次脳）、パーキンソンのリハビリテーション

学　　歴：メディカルカレッジ青照館

修士：九州大学大学院医学系学府 医科学専攻修了　医科学修士

博士：九州大学大学院医学系学府 医学専攻修了　博士

職　　歴：熊本機能病院 総合リハビリテーション部

麻生介護サービス アップルハート訪問看護ステーション福岡西

九州大学大学院医学系学府 ティーチング・リサーチ　アシスタント

日本学術振興会特別研究員（DC1）、（PD）

福西会南病院 リハビリテーション部

資　　格：作業療法士

原　　著：・Nakazono H, Ogata K., Takeda A., Yamada E, Kimura T, Tobimatsu S. Transcranial alternating current stimulation of α but not β frequency sharpens multiple visual functions. Brain Stimulation, 13(2), 343-352, 2020.

・Kirimoto H, Watanabe T, Kubo N, Date Shota, Sunagawa T, Mima T, Ogata K, Nakazono H, Tobimatsu S, Oliviero A. Influence of Static Magnetic Field Stimulation on the Accuracy of Tachystoscopically Presented Line Bisection. Brain Sci. 10, 1006,2020.

総　　説：・中薗寿人，緒方勝也，飛松省三. 経頭蓋交流電気刺激(tACS)による 脳の可塑性誘導. 脳神経内科 93, 54-59, 2020.

講　　演：第50回日本臨床神経生理学会. ワークショップ. 経頭蓋交流電気刺激(tACS)の刺激周波数と　位相依存的な効果について. 2020年11月28日.

所属学会：日本作業療法士協会，日本臨床神経生理学会，

Institute of Complex Medical Engineering (ICME), Society for Neuroscience (SfN),

8) 木村　まり子　助教　OTR　MS

研究内容：小児作業療法，障害児および境界児療育のコンサルテーション，

小児へのウェイティッドひざ掛けの効果

学　　歴：熊本リハビリテーション学院　作業療法学科　卒業
修士：国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科修了　保健医療学
職　　歴：社会福祉法人こぐま福祉会　肢体不自由児通園施設　こぐま学園
介護老人保健施設ケアプラザ伊都、おがた小児歯科医院発達保育科
熊本県福祉総合相談所　発達障害児通園指導事業　非常勤
玉名市・荒尾市社会福祉協議会　在宅障害児指導事業　非常勤
久山町・粕屋町ことばの教室非常勤、介護老人保健施設　ケアプラザ伊都
福岡国際医療福祉学院
福岡国際医療福祉大学
資　　格：作業療法士、 感覚統合療法認定セラピスト
学会報告：・木村まり子,山内閑子,中村美緒,ひざ掛けタイプ Weighted Blanket の重量や材質の違いが子どもの心理面や行動に与える影響　第 54 回日本作業療法学会
・中村美緒,木村まり子,山内閑子夜間中途覚醒症状を呈する自閉スペクトラム症児の Weighted Blanket の使用効果　第 54 回日本作業療法学会
・日田勝子,木村まり子,田上和代,神経発達症候群の目と手の協応評価に関する研究―日本版感覚統合検査と手指操作の関連　第 54 回日本作業療法学会
所属学会：社）日本作業療法士協会、社）福岡県作業療法協会、社）日本感覚統合学会

9)　吉田　亮平　助教　OTR　MS
担当科目：運動学実習、基礎運動機能評価法、作業療法評価学演習、運動器疾患作業療法学
研究内容：脳血管疾患後の ADL、IADL に関する研究
学　　歴：修士（保健医療学：H24）国際医療福祉大学大学院
博士課程単位取得後退学（H27）国際医療福祉大学大学院
職　　歴：柳川リハビリテーション病院・高邦会グループ病院（H16.4～H24.3）
柳川リハビリテーション学院（H24.4～H31.3）
福岡国際医療福祉学院（H31.4～R2.3）
福岡国際医療福祉大学（R2.4～）
資　　格：作業療法士（H16）
所属学会：日本作業療法士協会、福岡県作業療法協会、日本医学教育学会

作業療法士以外
10）小牧　元　教授　MD, PhD
担当科目：医学総論、生命倫理
研究内容：中学生の食行動異常の実態と関連要因に関する大規模地域調査研究
肥満の臨床評価ならびに認知行動療法の開発研究
心身症・アレキシサイミアの病態解明・脳機能画像研究
著書論文：「ストレス　体と体質の科学 Newton ニュートンムック別冊」「行動変容の応用、行動医学テキスト　中外医学社」「心身症の診断：心身医学標準テキスト第 3 版、医学書院」・「心身医学的要因による疾患 13 章 5 内分泌・代謝系疾患、最新内科学、西村書店」「心身症診断・治療ガイドライン 2006　協和企画」・「摂食障害治療ガイドライン. 医学書院」・「ストレス性障害；心の健康科学研究の現状と課題. （財）精神･神経科学振興財団」、「摂食障害治療ハンドブック　（監訳・翻訳）金剛出版」・「肥満の認知行動療法（監訳・翻訳）金剛出版」、・Interactions between cytokines and the hypothalamic-pituitary-adrenal axis during stress. Ann N Y Acad Sci. 1994、・Somatization and Psychosomatic Symptoms. Chapter 4 Alexithymia and Somatic Symptoms. Springer, New York, 2013
学　　歴：米国 Salem Senior High School 卒業
鹿児島大学医学部医学科卒業
博士：九州大学　医学博士

職　　歴：天理よろづ相談所病院内科系レジデント
九州大学医学部心療内科
米国 Tulane 大学医学部研究員
九州大学医学部心療内科講師
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所心身医学研究部長
国際医療福祉大学福岡保健医療学部教授
福岡国際医療福祉大学医療学部教授
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所名誉所員

資　　格：医師免許証、日本内科学会内科認定医、日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医
日本心身医学会心身医療(内科)専門医、日本心療内科学会心療内科専門医
World Health Organization Composite International Diagnostic Interview WHO-CIDI3.0 認定証取得、日本心身医学会・日本心療内科学会合同心療内科専門医認定、心療内科専門医、「精神科専門医ではない精神科医のための除外要件（ニ）に関わる認定証」取得
日本医師会認定産業医

著　　書：・小牧　元、大森美香 監訳、　マインドフル・イーティング　過食から自由になる心理学 日本評論社、東京　2020.9.20
・野崎剛弘、小牧　元、須藤信行. 肥満患者への心理療法. メタボリックサージェリー
・Clinical Update.　佐々木章、石垣泰（編）、MC メディカ出版、大阪、pp51-56, 2020

原　　著：・Yoneda R, Otani M, Hiraide M, Horie T, Mitsui T, Yoshida T, Komaki G, Yoshiuchi K.: Reliability and validity of the Japanese translation of the Eating Disorders Quality of Life (ED-QOL) scale for Japanese healthy female university undergraduate students and patients with eating disorders. Biopsychosoc Med. 2020 Jul 31;14:16. doi: 10.1186/s13030-020-00189-5. eCollection 2020.
・Yamato S, Kurematsu A, Amano T, Ariga H, Ando T, Komaki G, Wada K. Urocortin 1: A putative excitatory neurotransmitter in the enteric nervous system. Neurogastroenterol Motil. 2020 Oct;32(10):e13842. doi: 10.1111/nmo.13842. Epub 2020 Mar 20.
・Nakao M, Komaki G, Yoshiuchi K, Deter HC, Fukudo S.: Biopsychosocial medicine research trends: connecting clinical medicine, psychology, and public health. Biopsychosoc Med. 2020 Dec 8;14(1):30. doi: 10.1186/s13030-020-00204-9.
・小山憲一郎、荒木久澄、小牧　元、野崎剛弘: マインドフルネス食観トレーニング：Mindfulness-Based Eating Awareness Training (MB-EAT) に関する基礎研究―チョコレートエクササイズのマインドフルネス音声教示はチョコレートの摂取量を減らしうるか―. 福岡県立大学人間社会学部紀要 28(2):41-53, 2020.
・伊津野巧, 西原智恵, 野崎剛弘, 小牧　元, 須藤信行：注意欠如・多動性障害を伴う高度肥満症の 1 治療例. 肥満研究　196-201, 2020.

総　　説：・高倉　修、小牧　元.　摂食障害の精神病理―歴史と現在, 特別企画　摂食障害の生きづらさ. こころの科学　209:18-24, 2020.
・戸田健太, 高倉　修, 小牧　元. 日本における摂食障害の現状. 特集 III 摂食障害.脳神経内科 93(5):632-639,2020.
・小牧　元: 特集 摂食障害―最近のトピックス.序文 医学と薬学. 77(9):1247-1248,2020.

学会報告：・小牧　元, 西村大樹, 前田基成:体重増加のない女子中学生の心理身体的特徴：縦断研究. 第 59 回日本心身医学会九州地方会. 福岡、2020.2.8-9.
・野崎剛弘、小牧　元、須藤信行:「肥満糖尿病の病態と治療の進歩」　高度肥満症患者の性格特性と心理特性.　（シンポジウム 3）　第 58 回 日本糖尿病学会九州地方会　大分、2020.10.16-17.
・澤本良子、野崎剛弘、西原智恵、小牧　元、金光芳郎、須藤信行:肥満症の認知行動療法―有効性と限界について―（シンポジウム 2「肥満治療の地平：各専門領域における治療戦略と各科連携」）. 第 59 回日本心身医学会九州地方会. 福岡、2020.2.8-9.

・澤本良子、野崎剛弘、西原智恵、小牧　元、須藤信行. 女性肥満症患者において、短時間睡眠は高尿酸血症と関連する.　第59回日本心身医学会九州地方会. 福岡、2020.2.8-9
・西原智恵、野崎剛弘、澤本良子、荒木久澄、小牧　元、須藤信行. 減量治療経過で過度の体重減少をきたし、心身医学的治療が重要であった2例. 第59回日本心身医学会九州地方会. 福岡、2020.2.8-9.

所属学会：日本心身医学会、日本心療内科学会、日本摂食障害学会、日本肥満症治療学会、日本自律訓練学会、日本精神神経学会、Endocrine Society(米国内分泌学会)、Academy for Eating Disorders(国摂食障害アカデミー)

社会的活動（役員歴など）：
日本心身医学会（評議員、代議員、監事、英文誌編集委員会特別委員BioPsychoSocial Medicine , Editor-in-Chief)、日本心療内科学会評議員、日本ストレス学会評議員、日本自律訓練学会評議員、日本摂食障害学会理事長、日本肥満症治療学会評議員
厚生労働省 全国摂食障害対策連絡協議会委員

11）尾籠　晃司　教授　MD　PhD

担当科目：精神医学 I・II

研究内容：老年精神医学、認知症の症状と脳画像所見

著書論文：内科医のための認知症診療はじめの一歩（分担）（羊土社）
臨床精神医学講座（分担）（中山書店)、脳とこころのプライマリケア（分担）（シナジー）

学　　歴：九州大学医学部卒業
博士：九州大学　医学博士
ミュンヘン大学神経病理学研究所

職　　歴：九州大学病院精神科神経科
福岡大学医学部精神医学教室
福岡国際医療福祉大学医療学部作業療法学科

資　　格：精神保健指定医、日本精神神経学会専門医・指導医、日本老年精神医学会専門医・指導医
日本認知症学会専門医・指導医

原　　著：・Hitoshi IIDA, Koji OGOMORI, Yasuo KUWABARA, Shigeki NAGAMACHI, Hiroaki KAWASAKI Relationship Between Changes in Cerebral Blood Flow and Neuropsychiatric Symptoms in Dementia with Lewy Bodies 福岡大医紀（Med. Bull. Fukuoka Univ.）47(1):31-39, 2020.
・西尾美登里　尾籠晃司　内田直樹:認知症の介護者に焦点を当てた症例報告–認知症の妻の介護を通し，家族会の役割を獲得し社会的介護負担が軽減した夫の 1 例-　精神科 37(2):180-184, 2020.
・佐藤圭亮　長町茂樹　野々熊真也　高野浩一 桑原康雄　吉満研吾　尾籠晃司　坪井義夫:DLB と AD の鑑別診断における脳血流SPECT上のcingulate island score偽陰性，偽陽性例の検討 臨床放射線 65:141-147,2020.
・横田梨沙　長町茂樹　野々熊真也　高野浩一 桑原康雄　吉満研吾　尾籠晃司　坪井義夫:アルツハイマー型認知症の経過観察における脳血流 SPECT を用いた疾患特異領域評価の有用性の検討 臨床放射線 65:649-657, 2020.

総　　説：尾籠晃司 MCI(軽度認知障害)の 基礎知識のおさらい 認知症ケア 21(2) 26-32, 2020

講　　演：尾籠晃司　認知症の予防と診断　福岡国際医療福祉大学医療学部地域公開教室　2020 年 11 月 7 日　福岡国際医療福祉大学

社会的活動（役員歴など）：
日本老年精神医学会評議員、九州精神神経学会評議員、福岡市精神医療審査会委員、福岡県介護保険審査会委員、福岡市保健福祉審議会臨時委員
福岡市認知症にやさしいデザインガイドライン策定委員会委員

8.4　医療学部　視能訓練学科

(1)教員紹介

2020 年度教員： 吉冨健志（教授・学科長）

飛松省三（教授：生理学）、財津裕一（教授：公衆衛生）、森　望（教授：薬理学）

堀川悦夫（教授：老年学）、宇野宏一（准教授：眼科）橋本勇希（准教授）、

松藤佳名子（准教授）、佐々木信（講師）、潮井川修一（助教）、志岐早苗（助教：英語）、

王美蘭（助教：中国語）、Faramarz Samifanni（助教:英語）

1）吉冨　健志　学科長　MD, PhD

担当科目：視器解剖病態学、視覚生理学、リハビリテーション概論、視能障害学

研究内容：視覚障害者の生活に関する研究、緑内障、神経眼科

著書論文：自律神経系：神経眼科　中山書店

Double reciprocal innervations in the dog iris sphincter and dilator muscles. Invest Ophthalmol Vis Sci. 1986; 27: 83 - 91

学　　歴：学士：九州大学医学部

博士：九州大学大学院医学研究科

職　　歴：九州大学医学部付属病院

米国 Yale 大学 Research Associate

北里大学医学部眼科

和歌山県立医科大学眼科助教授

秋田大学医学部付属病院眼科

資　　格：医師（日本眼科学会認定眼科専門医，指導医）、視覚障害者用補装具適合判定医師

原　　著：・Sawada Y, Araie M, Shibata H, Murata K, Ishikawa M, Yoshitomi T, Iwase T. Clinical Assessment of Scleral Canal Area in Glaucoma Using Spectral-Domain Optical Coherence Tomography. Am J Ophthalmol. 216:28-36, 2020.

・Ishikawa M, Takaseki S, Yoshitomi T, Covey DF, Zorumski CF, Izumi Y. The neurosteroid allopregnanolone protects retinal neurons by effects on autophagy and GABRs/$GABA_A$ receptors in rat glaucoma models. Autophagy. 27:1-18, 2020.

・Oshima T, Yoshikawa H, Yoshitomi T, Ohtani M, Mimasaka S. A Case of Personal Identification Via Postmortem Computed Tomography Confirmation of Aphakic Eyes. Am J Forensic Med Pathol. 41(1):60-63, 2020.

総　　説：・寺崎 浩子，東 範行，北岡 隆，日下 俊次，近藤 寛之，仁科 幸子，盛 隆興，山田 昌和，吉冨 健志．未熟児網膜症に対する抗 VEGF 療法の手引き．日本眼科学会雑誌 124(12)：1013-1019，2020.

・吉冨 健志．Glaucoma　私の Archives　緑内障患者データ標準化．Frontiers in Glaucoma．59：72-73，2020.

講　　演：・吉冨健志：緑内障の治療戦略　臨床と薬理学．第 124 回日本眼科学会．東京国際フォーラム Web．2020 年 4 月 18 日.

・吉冨健志：緑内障と OCT の新しい流れ．第 65 回京滋眼科臨床懇話会．京都 WEB．2020 年 11 月 28 日

学会報告：・柴田 瞳，澤田 有，柴田 直弥，石川 誠，吉冨 健志，岩瀬 剛：正常日本人における視神経乳頭周囲脈絡膜厚の検討．第 124 回日本眼科学会総会,2020 年 4 月 16-19 日，東京国際フォーラム Web

・柴田 直弥，石川 誠，高関 早苗，渡辺 裕士，柴田 瞳，岩瀬 剛，八月朔日 泰和，吉冨健志，和泉 幸俊：ラット緑内障モデルにおける脂質代謝酵素ジアシルグリセロール・キナーゼの発現の変化．第 124 回日本眼科学会総会,2020 年 4 月 16-19 日，東京国際フォーラム Web

・石川 誠，柴田 直弥，渡辺 裕士，高関 早苗，岩瀬 剛，吉冨 健志，和泉 幸俊：緑内障実験モデルにおける神経ステロイドのオートファジー誘導と神経保護．第 124 回日本眼科学会総会,2020 年 4 月 16-19 日，東京国際フォーラム Web

・藤原 康太, 安田 美穂, 秦 淳, 中野 聡子, 中室 子, 村上 祐介, 岩瀬 愛子, 新家 眞, 田原 昭彦, 久保田 敏昭, 吉冨 健志, 二宮 利治, 園田 康平：地域住民における緑内障の有病率:久山町研究. 第124回日本眼科学会総会,2020年4月16-19日, 東京国際フォーラムWeb

・龍井 苑子, 石川 均, 真下 紀美代, 浅川 賢, 吉冨 健志, 庄司 信行：抗ヒスタミン点眼薬(エピナスチン塩酸塩)の瞳孔に対する作用. 第124回日本眼科学会総会,2020年4月16-19日, 東京国際フォーラムWeb

その他（学位取得、資格取得、研究費）：

科学研究費助成基盤研究C （近視性視神経乳頭変形が緑内障に与える影響：分担：2018～2021年（10万）

所属学会：日本眼科学会、日本緑内障学会、日本神経眼科学会、日本視野画像学会、日本眼薬理学会、日本自律神経学会、American Academy of Ophthalmology

社会的活動（役員歴など）：

日本眼科学会常務理事、日本緑内障学会監事、日本神経眼科学会理事
日本視野画像学会理事、日本眼薬理学会理事、日本自律神経学会評議員

2）橋本　勇希　准教授　ORT, PhD

担当科目：視機能概論、視能検査学

研究内容：網膜画像分野

著書論文：Comparison of clinical characteristics in patients with Vogt-Koyanagi-Harada disease with and without anti-retinal antibodies. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 257 (8): 1751-1758, 2020

学　　歴：学士：川崎医療福祉大学感覚矯正学科
修士：川崎医療福祉大学大学院
博士：北海道大学大学院医学研究院

職　　歴：北海道大学病院眼科

資　　格：視能訓練士、日本視能訓練士協会認定視能訓練士

著　　書：・橋本勇希, 齋藤航. 眼科イメージング2020 Q&A ぶどう膜炎 多発消失性白点症候群, 点状脈絡膜外層症のイメージングによる診断法について教えてください. あたらしい眼科：190-195, 2020.

・橋本勇希, 齋藤航, 石田晋. Unilateral acute idiopathic maculopathy (UAIM). 眼科診療ビジュアルラーニング6 黄斑部：319-322, 2020.

・廣岡季里子, 橋本勇希, 石田晋. 炎症, 自己免疫性, 腫瘍／点状脈絡膜内層症 (PIC). 眼科診療ビジュアルラーニング5 網膜, 硝子体：320-323, 2020.

・橋本勇希, 齋藤航. 炎症, 自己免疫性, 腫瘍／地図状脈絡膜炎 (SC). 眼科診療ビジュアルラーニング5 網膜, 硝子体：324-327, 2020.

原　　著：・Shinkai A, Saito W, Hashimoto Y, Saito M, Kase S, Noda K, Ishida S. Morphological features of macular telangiectasia type 2 in Japanese patients. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. Epub ahead of print

・Takamura Y, Yamada Y, Noda K, Morioka M, Hashimoto Y, Gozawa M, Matsumura T, Inatani M. Characteristic distribution of microaneurysms and capillary dropouts in diabetic macular edema. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 258:1625-1630,2020.

・Saito W, Hashimoto Y, Hirooka K, Ishida S. Choroidal thickness changes in a patient diagnosed with central serous chorioretinopathy during follow-up for pachychoroid pigment epitheliopathy. Retin Cases Brief Rep. 15:10-14,2020.

・Saito W, Hashimoto Y, Kiriko Hirooka, Susumu Ishida. Changes in choroidal blood flow velocity in patients diagnosed with central serous chorioretinopathy during follow-up for pachychoroid pigment epitheliopathy. Am J Ophthalmol Case Rep. 18: 100651,2020.

講　　演：・橋本勇希．思わず眼科医がうなずく，診断に役立つイメージング～糖尿病網膜症を攻略する検査技術～ 魅せて見せる！！少しの意識で変わる FA 術．第 26 回日本糖尿病眼科学会，2020，金沢．
・橋本勇希．スマホを使った、目からウロコな新感覚企画！－OCT の 3 つの基礎知識－．第 1 回視能訓練士スキルアップセミナー，2020，福岡．
学会報告：・橋本勇希，石田晋．妊娠性高血圧脈絡膜症および妊娠性中心性漿液性脈絡網膜症の脈絡膜症の脈絡膜形態と循環動態．第 10 回国際医療福祉大学学会学術大会，2020，大田原．
その他（学位取得、資格取得、研究費）：科学研究費助成事業 若手研究
所属学会：日本眼科学会、日本小児眼科学会、日本臨床視覚電気生理学会、日本視能訓練士協会、日本網膜硝子体学会、日本視野学会、日本眼循環学会

3) 松藤　佳名子　准教授　ORT，MA
担当科目：弱視斜視論、視能訓練学
研究内容：斜視、弱視、空間知覚
著書論文：半側空間無視患者におけるプリズム順応過程の詳細．日本視能訓練士協会誌 46：265－273，2017．
学　　歴：学士：東洋大学文学部教育学科
修士：熊本大学大学院文学研究科
川崎医療福祉大学大学院医療技術学研究科博士課程満期退学
国立小児病院附属属視能訓練学院
職　　歴：熊本大学医学部附属病院眼科
健康保険組合人吉総合病院眼科
福岡大学病院眼科
福岡国際医療福祉学院視機能療法学科学科長
資　　格：視能訓練士、日本視能訓練士協会認定専任教員
所属学会：日本視能訓練士協会、日本弱視斜視学会、日本視覚学会、日本神経眼科学会、日本高次脳機能障害学会、川崎医療福祉学会
社会的活動（役員歴など）：
日本視能訓練士協会専任教員等養成委員会委員、全国視能訓練士学校協会理事

4) 佐々木　信　講師　ORT，PhD
担当科目：視能検査学、弱視斜視論、視能訓練学
研究内容：弱視の検査・訓練・治療法の開発
著書論文：Properties of new diffusion filters for treatment of amblyopia with accurate occlusive effects,Graefe’s Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology 254(6)：1181-1187,2016.
特許取得：視力調整用シートおよびその製造方法　特許第 6202294 号,2017.
学　　歴：学士：近畿大学九州工学部経営工学科
学士：独立行政法人大学評価学位授与機構
修士：北九州市立大学大学院人間文化研究科
博士：産業医科大学大学院医学研究科
福岡国際医療福祉学院視機能療法学科
職　　歴：医療法人彦星会ふなつ眼科光分院田中眼科
医療法人社団青木眼科
福岡国際医療福祉学院視機能療法学科専任教員
医療法人高邦会高木病院非常勤
産業医科大学眼科学教室訪問研究員
資　　格：視能訓練士、日本視能訓練士協会認定視能訓練士
学会報告：佐々木信：弱視治療用眼鏡箔の開発,第 10 回国際医療福祉大学学会,大田原,2020.

その他（学位取得、資格取得、研究費）：
令和２年度　学内研究費　一般研究（A　一般）弱視治療用眼鏡箔の開発
所属学会：日本視能訓練士協会、日本眼科学会、日本弱視斜視学会、日本視覚学会、
日本神経眼科学会、九州心理学会

5）潮井川　修一　助教　ORT，MS
担当科目：視能検査学入門、関連職種連携論、生理光学Ⅲ、ロービジョン学ほか
研究内容：視線解析に関する研究
著書論文：大学バレーボール選手におけるスポーツビジョントレーニングの効果 2011 年 柳川リハビリテーション学院・福岡国際医療福祉学院紀要 7，p14-21（共著）
モノビジョンにおける読みの視線解析の検討　日本眼科学会誌 117 巻臨時増刊号 p382 2013（共著）
学　　歴：福岡国際医療福祉学院 視機能療法学科
修士：国際医療福祉大学大学院　保健医療学専攻　視機能療法学分野
職　　歴：医療法人大塚眼科医院
福岡国際医療福祉学院 視機能療法学科専任教員
資　　格：視能訓練士、日本視能訓練士協会認定専任教員、MWT ビジョントレーニング指導者
講　　演：・潮井川修一：ｅスポーツと眼の関係～ゲームとの正しい付き合い方とは？～．親子でｅスポーツ体験会 in やすらぎの郷やまくに．2021 年 3 月 20 日（福岡）
・潮井川修一：「眼の大切さ」ヒトの視覚を守る専門家のおはなし．福岡県立伝習館高等学校 大学体験講座，　2020 年 11 月 11 日（福岡）
所属学会：日本近視学会、日本視能訓練士協会、日本視覚学会、九州視機能研究会

視能訓練士以外
1）吉冨　健志　学科長　MD，PhD

6）飛松　省三　教授 MD，PhD
担当科目：神経学、生理学実習
研究内容：臨床神経生理学，システム神経科学
著書論文：脳機能イメージングによる視覚機能測定法．日本視覚学会（編）：視覚情報処理ハンドブック，朝倉書店，pp. 598-606，東京，2000.（共著）
Tobimatsu S & Kakigi R (eds.): Clinical Applications of Magnetoencephalography. Springer, Germany, 2016.
ベッドサイドの臨床神経生理学．中外医学社，2017.
学　　歴：学士：九州大学医学部
博士：九州大学　医学博士
職　　歴：九州大学医学部付属病院
シカゴ・ロヨラ大学医学部神経内科
九州大学医学部
九州大学大学院医学研究院
資　　格：医師（日本神経学会専門医）
原　　著：・Matsubara T, Hironaga N, Uehara T, Chatani H, Tobimatsu S, Kishida K: A novel method for extracting interictal epileptiform discharges in multi-channel MEG: Use of fractional type of blind source separation. Clin Neurophysiol, 131(3):425-436, 2020.
・Nakazono H, Ogata K, Takeda A, Yamada E, Kimura T, Tobimatsu S: Transcranial alternating current stimulation of α but not β frequency sharpens multiple visual functions. Brain Stimul, 13(2):343-352, 2020.

・Inamizu S, Yamada E, Ogata K, Uehara T, Kira J-I, Tobimatsu S: Neuromagnetic correlates of hemispheric specialization for face and word recognition. Neurosci Res, 156: 108-116, 2020.

・Komatsu S, Yamada E, Ogata K, Horie S, Hakoda Y, Tobimatsu S: Facial identity influences facial expression recognition: A high-density ERP study. Neurosci Lett, 2020 Apr 23;725:134911. doi: 10.1016/j.neulet.2020.134911.

・Takamiya N, Maekawa T, Yamasaki T, Ogata K, Yamada E, Tanaka M, Tobimatsu S: Different hemispheric specialization for face/word recognition: A high-density ERP study with hemifield visual stimulation. Brain Behav, 2020 Jun;10(6):e01649. doi: 10.1002/brb3.1649.

・松原鉄平, 廣永成人, 上原 平, 茶谷 裕, 飛松省三, 岸田邦治: 新しい信号源分離解析による発作間欠期てんかん性放電の検出と解析支援ツールの開発. てんかん研究, 38(1): 83-90, 2020.

・Hagiwara K, Ogata K, Hironaga H, Tobimatsu S: Secondary somatosensory area is involved in vibrotactile temporal-structure processing: MEG analysis of slow cortical potential shifts in humans. Somatosens Mot Res 2020 Sep;37(3):222-232. doi: 10.1080/08990220.2020.1784127.

・Ogata H, Zhang X, Inamizu S, Yamashita K-I, Yamasaki R, Matsushita T, Isobe N, Hiwatashi A, Tobimatsu S, Kira J-I: Optic, trigeminal and facial neuropathy related to anti-neurofascin 155 antibody. Ann Clin Transl Neurol, 2020 Nov;7(11):2297-2309. doi: 10.1002/acn3.51220.

・Kirimoto H, Watanabe T, Nami Kubo N, Date S, Sunagawa T, Mima T, Ogata K, Nakazono H, Tobimatsu S, Oliviero A: Influence of static magnetic field stimulation on the accuracy of tachystoscopically presented line bisection. Brain Sci. 2020, 10, 1006; doi:10.3390/brainsci10121006

総　説：・Tobimatsu S: Neuromagnetic oscillations in the human sensory systems: A mini review of our series and literature. Neurosic Res, 156: 117-129, 2020.

Tobimatsu S: Understanding cortical pain perception in humans. Neurol Clin Neurosci, 9 (1): 24-29, 2020.

・中薗寿人, 緒方勝也, 飛松省三. 経頭蓋交流電気刺激(tACS)による脳の可塑性誘導. 脳神経内科 93: 54-59, 2020.

・飛松省三: 脳の不思議を科学する. 福岡医誌, 111(2): 69-76, 2020.

・飛松省三: 神経振動と脳のネットワーク病. BRAIN NERVE, 72(11): 1183-1194, 2020.

講　演：・飛松省三: 痛み受容の脳内機構. 第38回九州ペインクリニック学会, 2020年2月15日, 福岡（特別講演）

・飛松省三: デジタル脳波判読のコツと実際. 第6回脳神経内科教育講演, 2020年8月21日, 高知大学, 高知（特別講演）

・飛松省三: 神経振動と脳のネットワーク病. 第35回ニューロネットワーク福岡.2029年12月3日. 特別講演.

学会報告：・山﨑貴男, 前川敏彦, 藤田貴子, 飛松省三: 自閉症スペクトラムはコネクトパチーである:視覚認知の側面から. 第50回日本臨床神経生理学会, 2020年11月26日, 京都（ワークショップ）

・飛松省三: 私を育ててくれた臨床神経生理学会. 日本臨床神経生理学会学術大会50回記念講演会・座談会, 2020年11月26日, 京都（記念講演・座談会）

・飛松省三: デジタル脳波判読術. 第50回日本臨床神経生理学会, 2020年11月27日, 京都（教育講演）

・中薗寿人, 緒方勝也, 飛松省三: 経頭蓋交流電気刺激(tACS)の刺激周波数と位相依存的効果について. 第50回日本臨床神経生理学会, 2020年11月28日, 京都(ワークショップ)

その他（学位取得、資格取得、研究費）：
科研費 基盤C(代表)：視覚はよみがえるのか？弱視と視覚系神経ネットワークの可塑性.
社会的活動（役員歴など）：
日本臨床脳磁図コンソーシアム代表世話人、日本臨床神経生理学会(名誉会員、前理事長)、
国際複合医工学会元理事長、認知神経科学会理事、日本生体磁気学会監事、
日本神経学会代議員、日本ヒト脳機能マッピング学会（名誉会員）

7) 財津　裕一　教授　MD, PhD
担当科目：社会保障論、保健医療福祉論、医学総論、公衆衛生学
研究内容：小児期からの生活習慣病対策、社会状況の変化と感染症対策
著書論文：Zaitsu, H., and Kimura, G. (1988) Simian virus 40 compensates a cellular mutational defect of a serum-dependent function controlling cell cycle progression in the G2 phase. Virology, 164:165-170.
Zaitsu, H., and Serrero, G. (1991) Adipogenic activity produced by hepatocyte-derived cell lines and by normal hepatocytes in primary culture. J. Cell. Physiol., 149:339-346.
これからの母子保健活動：子どもの健康づくり．地域保健, 1996；27(6)：62-68
医師臨床研修における保健所研修のあり方．日本医事新報　2003；4156：57-60
学　　歴：学士：九州大学医学部
医学博士：九州大学
職　　歴：九州大学医学部小児科助手
米国W.A.J. Cell Science Center Research Fellow
福岡県筑紫保健福祉環境事務所所長
資　　格：医師（産業医、小児科専門医）

8) 森　望　教授　PhD
担当科目：解剖学、生理学、薬理学
研究内容：眼からみる認知症リスク、視覚系指定難病の原因遺伝子、脳の老化と寿命遺伝子
著書論文：Baba S, Onga K, Kakizawa S, Ohyama K, Yasuda K, Otsubo H, Scott BW, Burnham WM, Matsuo T, Nagata I, Mori N, Involvement of the neuronal phosphotyrosine signal adaptor N-Shc in kainic acid-induced epileptiform activity, Sci. Rep., 6:27511(2016)
『網膜・視神経の発生と再生』Molecular Medicine 別冊　中山書店（分担執筆）(2002)
“Aging Mechanisms: Longevity, Metabolism, and Brain Aging” Mori, N, Mook-Jung, I, (eds.), Springer (2015)
学　　歴：学士：東京大学薬学部
博士：東京大学大学院薬学系研究科
職　　歴：東邦大学薬学部助手
米国シティーオブホープ研究所研究員
米国カリフォルニア工科大学研究員
米国ハワードヒューズ医学研究所上級研究員
米国南カリフォルニア大学アンドラス老年学研究所助教授
科学技術振興機構さきがけ研究２１「遺伝と変化」領域研究者
国立長寿医療研究センター（分子遺伝学研究部）部長
名城大学大学院総合学術研究科特任教授
科学技術振興機構「脳を守る」戦略研究代表者
長崎大学医学部教授（第一解剖）
長崎大学附属図書館長
著　　書：・森望：眼からみる老化脳:HSI カメラによる軽度認知障害(MCI)の未病診断へ向けて，未病と抗老化 29, 24-29 (2020)

・森望：『オランダ絵画にみる解剖学：阿蘭陀外科医の源流をたどる』フランク・イペマ、トーマス・ファン・ヒューリック(著)、森望、セバスティアン・カンプ(訳)、東京大学出版会（2021.1）

・森望：『寿命遺伝子：なぜ老いるのか、何が長寿を導くのか』森望(著) 講談社ブルーバックス （2021.3）

原　　著：・Kakizawa S, Kishimoto Y, Yamamoto S, Onga K, Yasuda K, Miyamoto Y, Watanabe M, Sakai R, Mori N., Functional maintenance of calcium store by ShcB adaptor protein in cerebellar Purkinje cells., Sci Rep. 10(1):14475 (2020)

役 員 歴：日本基礎老化学会理事、日本老年学会理事、国際放射線神経生物学会、(ISRN) 理事、日本神経化学会評議員、日本生化学会評議員、長崎メンタルヘルス研究会理事、脳の医学生物学研究会会長、福岡市総合図書館運営審議会委員など

9) 堀川　悦夫　教授　CP, DRS, PhD

担当科目：心理学、老年学、臨床心理学、カウンセリング論

研究内容：認知神経心理学、視覚・認知・モビリティ研究、運転リハビリテーション

著書論文：The neural correlates of driving performance identified using positron emission tomography, Brain and Cognition, 58, No.2, 166-171　2005.

高齢者における運転可否判断と運転技能の評価法、(池田学/上村直人編著) 臨床医のための高齢者と認知症の自動車運転, 2-17, 2018 年

学　　歴：学士：東北福祉大学社会福祉学部福祉心理学科

修士：愛知学院大学大学院文学研究科

博士：東北大学大学院情報科学研究科

博士：東北大学大学院医学系研究科

職　　歴：日本学術振興会特別研究員

東北福祉大学助手

東北大学医療技術短期大学部助教授

文部科学省在外研究員

Mobility Research Lab. GeriatricCenter, Univ. of Michigan, Visiting Scholar

東北大学医学部助教授

佐賀大学医学部地域医療科学教育研究センター 認知神経心理学分野教授

佐賀大学大学院医学系研究科教授

佐賀大学医学部附属病院　動作解析・移動支援開発センター長

（公財）交通事故総合分析センター客員研究員、特別研究員

佐賀大学医学部脳神経内科客員研究員

資　　格：公認心理師、臨床心理士、介護福祉士、ジョブコーチ（厚労省）

役 員 歴：佐賀中部地区福祉有償運送協議会会長、佐賀県高次脳機能障害者支援委員会委員、日本安全運転医療研究会世話人

10) 宇野　宏一　准教授　MD, PhD

担当科目：視能障害学

研究内容：網膜硝子体疾患

著書論文：Role of Nrf2 in retinal vascular development and the vaso-obliterative phase of oxygen-induced retinopathy. Experimental Eye Research 2010 90(4): 493-500

学　　歴：学士：福岡大学医学部

博士：福岡大学大学院

職　　歴：福岡大学病院眼科

Wilmer Eye Institute, The Johns Hopkins University School of Medicine

福岡山王病院眼科副部長

資　　格：医師（日本眼科学会認定眼科専門医）

所属学会：日本眼科学会

11）王　美蘭　助教　MA, PhD

担当科目：中国語、法学、海外保健福祉事情

研究内容：企業結合法制の比較の研究

著書論文：資金調達と投資者保護-日中法律規制の比較、企業結合法制の比較法的研究―日本、アメリカ、中国

学　　歴：学士：中国政法大学経済法学部
修士：神戸大学大学院法学研究科
博士：神戸大学大学院法学研究科

職　　歴：神戸国際貿易促進協会高級顧問、甲南女子大学、兵庫県立大学、
関西看護医療大学非常勤講師、朝日新聞カルチャーセンター講座講師

資　　格：福岡地方裁判所司法通訳登録

12）志岐　早苗　助教　MA, PhD

担当科目：医学英語Ⅰ、英語（応用）コミュニケーション概論

研究内容：対人コミュニケーション、恋愛コミュニケーション

著書論文：恋愛解消時における「リベンジ」と「締めくくり」に関する考察
2017年9月 九州コミュニケーション研究 第15号

学　　歴：学士：University of Wisconsin-Madison, School of Human Ecology（理学士）
修士：西南学院大学大学院 文学研究科 英文学専攻 コミュニケーション学専修
博士：西南学院大学大学院 文学研究科 英文学専攻 コミュニケーション学専修

職　　歴：福岡国際医療福祉学院非常勤
九州産業大学、久留米大学

13）Faramarz Samifanni　助教 M.A.E.d., Ed.D.

担当科目：英語、英会話

研究内容：新しい言語の学習法

学　　歴：学士：Trent University, Ontario, Canada　社会学
修士：Cebu Normal University, Cebu, Philippines 英語教授法 English Language Teaching（ELT）
博士：Cebu Normal University, Cebu, Philippines 英語教授法 English Language Teaching（ELT）
博士：Cebu Normal University, Cebu, Philippines 教育管理

職　　歴：上武大学、桐生高等専門学校、日赤看護専門学校　非常勤
群馬大学、群馬警察通訳、福岡警察通訳

資　　格：私立中高等学校教員（広島、長崎）

役 員 歴：Nihon International Communication Education（NICE）Language Research Center
創設者・ディレクター
Journal of Physical Therapy Science 査読委員

原　　著：・Faramarz Samifanni:The Fluency Way: A Functional Method for Oral Communication in English Language Teaching 13(3),100-114,2020.
・Faramarz Samifanni:THE KEY INTO LEARNING A NEW LANGUAGE: DO NOT JUST TEACH THE LANGUAGE, LOCALIZE FIRST. European Journal of Education Studies 7(2):351-363,2020.
・Faramarz Samifanni: Systematization: The Effective Way to Learning and Achieving Competence of the English Language. Journal of Education and Practice 11 (14): 21-31,2020.
・Faramarz Samifanni:Imitation as a Skill in Language Learning: The Aid to Achieving Fluency of the Target Language. Research Journal of Education 6 (5): 45-52,2020.

・Faramarz Samifanni:Perspectives and learning culture regarding the inclusion of visually impaired learners in mainstream classrooms: a qualitative rapid review. International University of Health and Welfare Journal. 25(2):73-83,2020.

・Faramarz Samifanni:Japan’s International Education during COVID-19 Pandemic: Show Impact or Face Swift Death. Asian Journal of Humanities and Social Studies 8(4):116-123,2020.

・Faramarz Samifanni:Perception on the Effectiveness of Method in Teaching English as a Second Language to 21st Century Learners. International Journal of Social Science and Economics Invention 6 (10):362-368,2020.

・Faramarz Samifanni:Intensifying Language Learning Through Practice: Role-Play and the Perceptions of Japanese Medical- Related Profession Students. Asian Journal of Education and e-learning 8(2):5-10,2020.

講　　演:・Faramarz Samifanni: “Sounds of Communication” Okayama Board of Education, Okayama, Japan, 2007, Symposium

・Faramarz Samifanni: “English Language Teaching Through Localization, Imitation, Practice and Standardization Seminar,” Cebu Normal University, Philippines, 2020.

・Faramarz Samifanni: Invited Lecture “COVID-19 in Japan: Dealing with the Dilemma Faced by Private International Universities,” International Conference of Society of Physical Therapy Science & Korean Society of Integrative Medicine in Korea: Special Lecture 1, 2020, Invited Lecture

そ の 他: JACET

社会活動:“Canada: its culture and communication Seminar,” Friends Force, Japan, 2020, Invited Lecture.

“IRAN: Culture and Traditions Online Seminar,” Kokusai Hiroba, Japan. 2020, Invited Lecture.

8.5　言語聴覚専攻科

(1) 教員紹介

2020 年度教員： 平島ユイ子（教授・専攻科長）

吉永明史（助教）、豊嶋明子（助教）、池下博紀（助教）

1)平島ユイ子　ST,MA,PhD

担当科目：言語聴覚障害学概論・演習・特論、言語発達障害学

研究内容：難聴児の言語とコミュニケーション

著書論文：通常学級で使える「特別支援教育」ハンドブック（共著）、明治出版

学　　歴：学士：広島大学学校教育学部

修士：福岡大学大学院教育学研究科障害児教育専攻

博士：国際医療福祉大学大学院言語聴覚専攻

職　　歴：福岡市立小学校教諭

国際医療福祉大学福岡保健医療学部言語聴覚学科

福岡国際医療福祉大学 言語聴覚専攻科 専攻科長

資　　格：言語聴覚士、認定言語聴覚士（聴覚障害）

役 員 歴：日本教育オーディオロジー研究協議会　理事

著　　書：医学書院標準言語聴覚障害学「聴覚障害学（分担）第 7 章学校教育における指導と教育, 324-331, 2021

原　　著：・平島ユイ子：学齢難聴児の生活作文の内容に関する要因ーナラティブの構成要素からみた評価,教育オーディオロジー研究第 14 巻 23-27, 2021

・勝瀬郁代, 平島ユイ子：言語通級指導教室を支援するための遠隔構音検査システム, 教育システム情報学会誌 38, 1, 55-60,2021

講　　演：難聴児の支援について:人工内耳友の会 ACITA 東海支部：名古屋市総合福祉会館：11 月 22 日

学会報告：日本コミュニケーション障害学会：自閉症スペクトラム障害を伴う難聴児は相手の身振りと表情をどのように合致させるのか：5 月 30 日

その他（学位取得、資格取得、研究費）：

科研費（18K02798）自閉症を伴う難聴児のコミュニケーション手段と関係する要因（主担当）科研費（18K02768）聴覚情報処理障害児（APD 児）への聴覚訓練プログラムの開発（部分）

社会的活動（役員歴など）：日本教育オーディオロジー研究協議会　理事

2)吉永　明史　助教　ST、MS

担当科目：言語聴覚障害学、発声発語障害学

研究内容：呼吸、咳嗽と誤嚥性肺炎に関する研究

著書論文：脳血管障害患者における喉頭咳反射と誤嚥性肺炎の関係について-喉頭咳反射の強さ, 潜在時間, 回数に着目した検討-

学　　歴：長崎リハビリテーション学院　言語聴覚学科卒業

修士：国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻修了

博士：国際医療福祉大学大学院　在学中

職　　歴：誠愛リハビリテーション病院

柳川リハビリテーション学院　教員

福岡国際医療福祉学院　言語聴覚学科教員

資　　格：言語聴覚士

社会的活動（役員歴など）：福岡言語聴覚士会理事・社会局長

3)豊嶋　明子　助教　ST、MS

担当科目：言語聴覚障害学概論・演習・特論、失語症・高次脳機能障害学

研究内容：構文の離開・産生能力、支援プログラムの研究　小児の統語機能発達

学　　歴：学士：同志社大学商学部卒業

修士：国際医療福祉大学大学院修士課程修了

博士：国際医療福祉大学大学院博士課程在学中

福岡国際医療福祉学院　言語聴覚科卒業

職　　歴：恵光会原病院、井野辺病院、福岡鳥飼病院

福岡国際医療福祉学院　教員

資　　格：言語聴覚士

4)池下　博紀　助教　ST,MS

担当科目：言語聴覚障害学概論・演習・特論、高次脳機能障害学

研究内容：急性期における失語症患者への評価

学　　歴：学士：九州保健福祉大学言語聴覚学科卒業

修士：国際医療福祉大学大学院　言語聴覚専攻修士課程修了

博士：国際医療福祉大学大学院　博士課程　在学中

職　　歴：吉備高原医療リハビリセンター

佐賀大学医学部付属病院

脳神経センター太田記念病院

福岡国際医療福祉大学

資　　格：言語聴覚士

９．大学・関連施設

(2021 年 3 月 1 日現在)

9.1　学校法人　高木学園

1）福岡国際医療福祉大学　医療学部（理学療法学科、作業療法学科、視能訓練学科）、言語聴覚専攻科
（〒814-0001 福岡市早良区百道浜 3-6-40　TEL:092-832-1200）

2）専門学校柳川リハビリテーション学院　理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科
（〒832-0058 福岡県柳川市上宮永町 116　TEL: 0944-72-1001）

3）大川看護福祉専門学校　看護学科、介護福祉学科
（〒831-0016 福岡県大川市大字酒見 391-5　TEL: 0944-88-3433）

9.2 学校法人　国際医療福祉大学

1）国際医療福祉大学　保健医療学部（看護学科、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、視機能療法学科、放射線・情報科学科）、医療福祉学部（医療福祉・マネジメント学科）、薬学部（薬学科）
（〒324-8501 栃木県大田原市北金丸 2600-1　TEL：0287-24-3018）

2）国際医療福祉大学　医学部（医学科）、成田看護学部（看護学科）、成田保健医療学部（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科、放射線・情報科学科）、臨床工学特別専攻科
（〒286-8686 成田市公津の杜 4-3　TEL：0476-20-7701）

3）国際医療福祉大学　赤坂心理・医療福祉マネジメント学部（心理学科、医療マネジメント学科）
（〒107-8402 東京都港区赤坂 4-1-26　TEL：03-5574-3900）

4）国際医療福祉大学　小田原保健医療学部（看護学科、理学療法学科、作業療法学科）
（〒250-8588 小田原市城山 1-2-25　TEL 0465-21-0361）

5）国際医療福祉大学　福岡保健医療学部（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科）
福岡薬学部（薬学科）
（〒831-8501 大川市榎津 137-1　TEL：0944-89-2000）

6）国際医療福祉大学大学院　医療福祉学研究科、薬学研究科、薬科学研究科、医学研究科
（〒107-8402 東京都港区赤坂 4-1-26　TEL：03-5574-3900）

7）国際医療福祉大学塩谷看護専門学校　看護学科
（〒329-2145 栃木県矢板市富田 77-6　TEL：0287-44-2322）

8）国際医療福祉大学病院（〒329-2763 栃木県那須塩原市井口 537-3　TEL：0287-37-2221）
西那須野町井口（大学から車で約 15 分）に、平成 10 年 7 月に開設、平成 14 年 2 月には新しい棟を増やし、産婦人科を含んだ総合病院として再スタートした。病床は 353 床である。平成 25 年 3 月に栃木県では初めて手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ Si」導入した。各診療科目とも最新の診療と専門スタッフが揃っている。

9）介護老人保健施設　マロニエ苑（〒329-2763 那須塩原市井口 533-4　TEL：0287-36-6622）
国際医療福祉大学病院の隣に平成 5 年に開所した 200 床の老人保健施設である。苑内には温泉をひいた大浴場があり、快適な環境と、最新の設備とともに、PT・OT・ST のスタッフによるきめ細やかなリハビリテーションを実施している。

10）にしなすの総合在宅ケアセンター（〒329-2763 那須塩原市井口 537-3　TEL：0287-39-3303）
国際医療福祉大学病院・マロニエ苑と隣接し、開所した総合在宅ケアセンター。通所リハビリテーション・通所介護・にしなすのマロニエ訪問看護ステーション・ホームヘルパーステーションがある。マロニエ苑同様、天然温泉を利用した浴室・リフト浴槽等もあり、楽しみながら受けられる基本的な介護プログラムや機能的リハビリテーションを実施している。

11）国際医療福祉大学クリニック（〒324-0011 大田原市北金丸 2600-6　TEL：0287-24-1001）
大学敷地内にある病院で、健康管理センターと言語聴覚センターがあり、健康管理センターは学生の健康診断や健康相談、診療などを行っている。言語聴覚センターは、数多くの検査室・治療室を持ち、精密な聴覚機能検査機器や言語治療に使うマルチメディアシステムなどで、言語および聴覚に障害がある子供や成人の治療にあたっている。

12）国際医療福祉大学塩谷病院（〒329-2145　栃木県矢板市富田 77　TEL：0287-44-1155）
平成 21 年 4 月に厚生連塩谷総合病院から継承して、塩谷病院としてオープンした。病床は 240 床である。平成 23 年より回復期病棟を開設し 365 日体制のリハビリテーションを実施している。

13）しおや総合在宅ケアセンター（〒329-2145　栃木県矢板市富田 77　TEL：0287-44-1155）
国際医療福祉大学塩谷病院に隣接し、栃木県北（塩谷郡市地域）の通所サービス、訪問サービスの拠点として平成 26 年 4 月に開設された総合在宅ケアセンターである。

14）国際医療福祉大学熱海病院（〒413-0012 熱海市東海岸町 13-1　TEL：0557-81-9171）
平成 14 年 7 月に国立病院から承継し、新病院が平成 17 年 7 月に開設した。病床は 269 床である。リハビリテーション室からは海が望め、すばらしいオーシャンビューや熱海ならではの温泉がある。平成 24 年 8 月に回復期リハビリテーションセンターを開設した。

15）国際医療福祉大学三田病院　（〒108-8329 東京都港区三田 1-4-3　TEL03-3451-8121）
平成 17 年 3 月に東京専売病院から継承して三田病院としてオープンした。乳腺センター、頭頸部、腫瘍センター、呼吸器センター、予防医学センターを開設し、新たな外来を開設した。病床数は 291 床である。

16）国際医療福祉大学市川病院（〒272-0827 千葉県市川市国府台 6-1-14　TEL：47-375-1111）
昭和 41 年、結核に対する化学療法研究所の附属病院として開設。今後は結核のみならず、肺ガンなどの呼吸器疾患全般を診療体制の柱とするとともにがん全般に渡る化学療法の研究にも取り組む。平成 19 年 2 月に新病院が完成した。平成 29 年 9 月化学療法研究所附属病院から市川病院に名称が変更になった。

9.3　社会福祉法人　邦友会

1）国際医療福祉大学リハビリテーションセンター（〒324-0011 大田原市北金丸 2600-7　TEL：0287-20-5200）
国際医療福祉大学リハビリテーションセンターは大学の敷地内にあり、平成 12 年 4 月に開設。重度心身障害児施設であるなす療育園と身体障害者療護施設であるサポートハウス那須、那須デイサービスセンターからなる総合施設である。なす療育園と那須療護園はそれぞれ 50 床の施設である。なす療育園では外来リハビリテーション診療も行っており、現在栃木県北部地域の小児リハビリテーションの中核となっている。

2）おおたわら総合在宅ケアセンター（〒324-0011 大田原市北金丸 2600-6　　TEL：0287-20-2501）
おおたわら総合在宅ケアセンターは大学の敷地内に、平成 15 年 4 月に開所した総合在宅ケアセンターである。通所リハビリテーション、通所介護、グループホームがある。

3）おおたわら風花苑（〒324-0011 大田原市北金丸 2600-6　　TEL：0287-20-2230）
入所定員 40 名、短期入所定員 30 名の全室個室・ユニットケア型の特別養護老人ホームである。各ユニットは 7～10 名の構成で、利用者同士のふれあいの場がもてるよう、団欒や簡単な調理、食事なども楽しむことができる居住環境を重視した空間を提供している。

4）特別養護老人ホーム栃の実荘（〒329-2763 那須塩原市井口 533-11　TEL：0287-37-1160）
国際医療福祉大学病院・マロニエ苑の隣に、平成 6 年に開所した 77 床の特別養護老人ホームである。ホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイなど様々なサービスを提供している。平成 11 年には在宅介護センターが開設され、介護保険に関連したサービスを提供できる。

9.4　医療法人財団　順和会

1）山王病院（〒107-0052 東京都港区赤坂 8-5-35　TEL：03-3402-3301）
東京の赤坂に立つ昭和 12 年創立の歴史ある病院である。高度化・専門化する医療に対応し得るスタッフをそろえ、大学病院とも連携を取りながら最新の診療を行っている。都会型の病院であり、平成 12 年 11 月に新病院が完成した。特に、リプロダクションセンター（不妊治療）が有名である。

9.5 医療法人社団　高邦会

1）高木病院（〒831-0016 大川市酒見 141-211　TEL：0944-87-0001）
506 床の急性期病院。ICU、HCU を有する。医師やコメディカルと連携しチーム医療を行っている。脳血管疾患、神経難病、整形外科疾患、呼吸器疾患、心疾患、悪性新生物、小児など多岐にわたる疾病に対して理学療法を行っている。

2）柳川リハビリテーション病院（〒832-0058 柳川市上宮永町 113-2　TEL：0944-72-0001）
平成 2 年に開設した、240 床のリハビリテーション専門病院である。回復期病棟は 120 床と近隣では最多の病床数を誇る。西日本屈指の面積（1，230 ㎡）を持つ広い訓練室を持ち、約 90 名のリハビリテーションスタッフが在籍している。医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、ソーシャルワーカーなどのチーム連携により、365 日質の高いリハビリテーションを提供している。病院内には通所リハビリテーションを併設し、生活期のリハビリテーションを支援している。

3）みずま高邦会病院(〒830-0416 三潴郡大木町大字八町牟田 1621-1　TEL：0944-87-8880)
平成 12 年に開設された 120 床の療養病床を持つ病院であり、病院内に通所リハビリテーションセンター及び居宅介護支援事業所を併設している。治療・ケアのための設備、休息のための安らぎのある病室、語らいながら食事ができる空間などを機能的に配置し、病気の治療と生活リハビリテーションを実践できる環境を整え、自宅で療養されている高齢者及びそのご家族に対する在宅支援の機能も備えている。

4）福岡山王病院（〒814-0001 福岡市早良区百道浜 3-6-45　TEL：092-832-3061）
福岡国際医療福祉大学、総合ケアセンターももちに隣接し、平成 21 年 5 月に開院した 199 床完全個室の病院である。通所リハビリテーションも併設している。

5）福岡中央病院（〒810-0022 福岡市中央区薬院 2-6-11　TEL：092-741-0300）
1926 年に熊本逓信病院福岡支所として、福岡市で診療を開始、1951 年に福岡逓信病院として現在地に移転した。2019 年 4 月、医療法人社団 高邦会 福岡中央病院へと変わった。福岡市の中心に位置し、他の医療機関との連携も密であったこれまでに加えて、あらゆる医療福祉のニーズに最高レベルで応える複合体を目指す国際医療福祉大学・高邦会グループの充実した医療・福祉施設と連携している。

6）介護老人保健施設　水郷苑（〒832-0058 柳川市上宮永町 269　TEL：0944-74-4001）
平成 5 年に開設した、入所 100 床の老人保健施設である。苑内には通所リハビリテーションを併設している。柳川の温和な風土を背景に、天然温泉を利用した浴室や、リフト設備等安全に配慮した設備の充実により、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の他、他職種連携のもと、生活リハビリを基調にきめ細やかな ADL アプローチや活動を支援している。

7）有明クリニック（〒831-0016 大川市酒見 215-1 おおかわ交流プラザ 3 階　TEL：0944-85-8081）
平成 27 年 5 月、「在宅療養支援診療所有明クリニックと通所リハビリテーション」を開設。有明クリニックでは、通院が困難な方に対して訪問診療を行う。併設する通所リハビリテーションでは、トレーニングマシンを使ったパワーリハビリテーション、ご利用者の日常生活機能の改善をより計画的に支援してい

く生活行為向上リハビリテーション、認知症予防や記憶力改善を図る脳活性化リハビリテーションを柱に、専門職による充実した個別・集団リハビリテーションを行う。また、多様な入浴設備を導入し、自宅での入浴が困難な方でも安心して入浴できるサービスを提供する。

8) ケアサポートハウス大川（〒831-0022 大川市榎津 160-1　TEL：0944-87-0018）
平成 12 年、高木病院の南側に開設された総合在宅ケアセンターで以下の施設を配置している。グループホーム・高齢者向け賃貸アパート・通所介護・居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション・訪問介護ステーションがある。「利用者が住み慣れた地域社会において、その人らしい生活ができるよう、個性に応じた適切な援助を行う。」を運営理念に、関連他事業所とともに生活期のリハビリテーションを支援している。

9) 有明総合ケアセンター（〒832-0058 柳川市上宮永町 277-2　TEL：0944-75-1670）
水郷苑の南側に平成 12 年に開設した総合在宅ケアセンター。居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション・通所介護がある。「利用者が住み慣れた地域社会において、その人らしい生活ができるよう、個性に応じた適切な援助を行う。」を運営理念に、関連他事業所とともに生活期のリハビリテーションを支援している。

10) 総合ケアセンターももち（〒814-0001 福岡市早良区百道 3-6-40　TEL：092-831-1901）
福岡山王病院、福岡国際医療福祉学院と同一敷地内に平成 20 年に開設した、通所リハビリテーション、訪問看護ステーション、居宅介護支援の、在宅介護を支援する 3 事業所を併せ持つ複合福祉施設である。グループ内だけでなく、福岡市内の病院、施設などと連携し、利用者が住み慣れた地域で安心して在宅生活を継続できるように、利用者の個性にあったサービスを提供している。

9.6 社会福祉法人高邦福祉会

1) 社会福祉法人高邦福祉会　柳川療育センター
（〒832-0813 福岡県柳川市三橋町棚町 218-1　TEL：0944-73-0039）
平成 28 年 5 月、入所を 110 床、短期入所を 10 床へ増床し、移転オープンした重症心身障害児（者）施設である。移転後の敷地内には、児童発達支援センター「あいりす」と国際医療福祉大学神経発達症研究センターが併設され、総合的な医療・福祉・教育施設へと規模が拡大した。現在、リハビリテーション室には理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が 34 名勤務し、入所・外来利用者に対して、質の高い療育を提供している。

2) 社会福祉法人高邦福祉会　デイサービスセンターりはらいふ
（〒832-0058 福岡県柳川市上宮永町 284 番地 2　らいふサポートセンター柳川 1 階　TEL:0944-75-1130）
平成 28 年 9 月、機能訓練特化型デイサービスとして開設。午前 3 時間、午後 2 時間とそれぞれ短時間利用となっている。利用者の自立に向け、運動機能の訓練（マシン等を利用した有酸素運動）を中心としたサービスを提供。「活動」や「参加」を目標に、楽しく体を動かすことで運動の常習化を図り、健康・自立を促している。

ザ・フクオカ　情報誌：2020 年度自己点検・評価資料集
2021 年 6 月 1 日　2021　発行　2 号

福岡国際医療福祉大学
自己点検・評価委員会
福岡県福岡市早良区百道浜 3-6-40
TEL：092-832-1200　FAX：092-832-1167